

平成 19 年度  
福岡市高齢者実態調査報告書  
【概要版】

---

平成 20 年 3 月  
福岡市保健福祉局



# 目 次

## I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 回収結果	1
4. 資料の見方	2

## II 調査結果

### 第1章 高齢者一般調査

1. 回答者の属性	3
2. 世帯状況	4
(1) 世帯構成	4
(2) 住居形態	4
(3) 世帯収入	4
3. 健康状態と受診状況	5
(1) 健康状態	5
(2) 健康のための取り組み	5
(2) 健康のために知りたいこと	5
(4) 病院の受診状況	6
(5) 特定高齢者候補者	6
4. 日常生活	7
(1) 近所付き合い	7
(2) 外出	7
(3) 心配ごと	8
5. 生きがいと社会参加	9
(1) 生きがいを感じること	9
(2) 仕事	9
(3) ボランティア活動	10
(4) 文化教養に関する活動	10
6. 福祉サービス	11
(1) 今後受けたたいサービス	11
(2) 保健・医療・福祉の情報源	12
(3) 行政への要望	12

### 第2章 介護保険サービス共通設問

1. 回答者の属性	13
(1) 性別、年齢	13
(2) 要介護度	14
(3) 要介護状態になった主な原因	15
2. 介護者	16
(1) 主な介護者	16
(2) 介護者の年齢	16
3. 経済状況と介護保険料	17

(1) 世帯収入	17
(2) 介護保険料	17
4. 相談先	18
(1) 介護や福祉サービスなどの相談先	18
(2) 地域包括支援センターの利用意向	18
(3) 虐待と思うもの	18

### 第3章 在宅サービス利用者調査

1. 介護サービス	19
(1) 介護予防・介護保険サービス内容の満足度	19
(2) 介護予防サービスの効果	20
(3) 介護予防・介護保険サービスの不満点	20
2. 今後の介護	21

### 第4章 在宅サービス未利用者調査

1. 介護保険サービスの利用	22
(1) 在宅サービスの利用経験	22
(2) 在宅サービスを利用していない理由	22
2. 今後の介護	23
(1) 今後の介護サービスの利用意向	23
(2) 今後の介護の仕方	23

### 第5章 施設等サービス利用者調査

1. 介護サービス	24
(1) 施設等サービスを希望した理由	24
(2) 施設等を選ぶときに、重視する点	25
(3) 現在の施設等の満足度	26
2. 親族との交流	27
(1) 入所前の世帯構成	27
(2) 日頃から係わりのある親族のいる場所	28
(3) 外泊の頻度	29
(4) 外泊する際に必要と思うもの	29

### 第6章 介護支援専門員調査

1. 回答者の属性	30
2. 勤務形態	30
3. ケアマネジメント	31
(1) 給付管理件数	31
(2) 組み合わせた保険外サービス	31
(3) 他機関との連携	32
(4) 処遇困難事例と対処方法	32
(5) 高齢者虐待の事例と対処方法	33
4. 資質向上の取り組み	34
5. 行政への要望	35

## I 調査の概要

## 1. 調査の目的

福岡市に在住する高齢者などの保健福祉に関するニーズ・意識などを把握することにより、「福岡市高齢者保健福祉計画・福岡市介護保険事業計画」の策定に必要な基礎的データを収集・分析するとともに、本市の高齢者福祉施策の向上に資することを目的とする。

## 2. 調査の概要

調査種別	調査対象者	調査票発送日	調査票回収
高齢社会に関する調査	高齢者一般調査 5,000人 市内在住の60歳以上の方から無作為に抽出	平成19年 10月1日	～平成19年 11月16日 郵送回収
	在宅サービス利用者調査 5,000人 市内在住の要介護認定者のうち、平成19年6月中に介護保険の在宅サービスを利用した方から無作為に抽出 ※第2号被保険者(40～64歳)含む	平成19年 10月16日	
	在宅サービス未利用者調査 3,000人 市内在住の要介護認定者のうち、平成19年6月中に介護保険の在宅サービスの利用がなかった方から無作為に抽出 ※第2号被保険者(40～64歳)含む		
	施設等サービス利用者調査 1,500人 介護保険施設(介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設)やグループホームに平成19年6月時点で入所中の方から無作為に抽出 ※第2号被保険者(40～64歳)含む		
介護支援専門員調査 865人 福岡市内の居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員(悉皆調査)	平成19年 10月1日		

## 3. 回収結果

調査の種類	配布数	回収数 (回収率)	有効回答数 (有効回答率)	
高齢社会に関する調査	高齢者一般調査	5,000	3,235 (64.7%)	3,161 (63.2%)
	在宅サービス利用者調査	5,000	3,073 (61.5%)	2,983 (59.7%)
	在宅サービス未利用者調査	3,000	1,633 (54.4%)	1,543 (51.4%)
	施設等サービス利用者調査	1,500	1,122 (74.8%)	1,037 (69.1%)
介護支援専門員調査	865	473 (54.7%)	471 (54.5%)	

回収された調査票から白紙や記入不完全のものを除いた有効票のみを集計に使用している。

#### 4. 資料の見方

- ① 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、合計が 100%にならない場合がある。
- ② 比率は各質問の「回答数」を基数（N）として算出（N=100%として算出）している。
- ③ 複数回答が可能な設問においても、比率算出の基数は「回答数」とし、該当する選択肢に○印をつけた方が全体から見て何%なのかという見方をした。したがって、各選択肢の比率を合計すると 100%を超える場合がある。
- ④ 表・グラフの見出しでの回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- ⑤ グラフ内の数値の単位はすべて%である。
- ⑥ 高齢者一般調査の中で、経年比較の参考「高齢者のみの世帯」とは、対象者本人が 65 歳以上かつ世帯構成で「一人暮らし世帯」、「夫婦二人暮らし世帯（夫婦ともに 65 歳以上）」、「あなたとその他の高齢者（65 歳以上の方）のみの世帯」となっている。

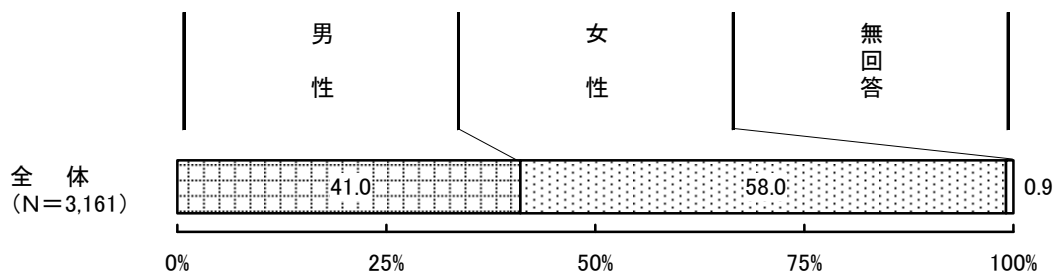
## Ⅱ 調査結果

### 第1章 高齢者一般調査

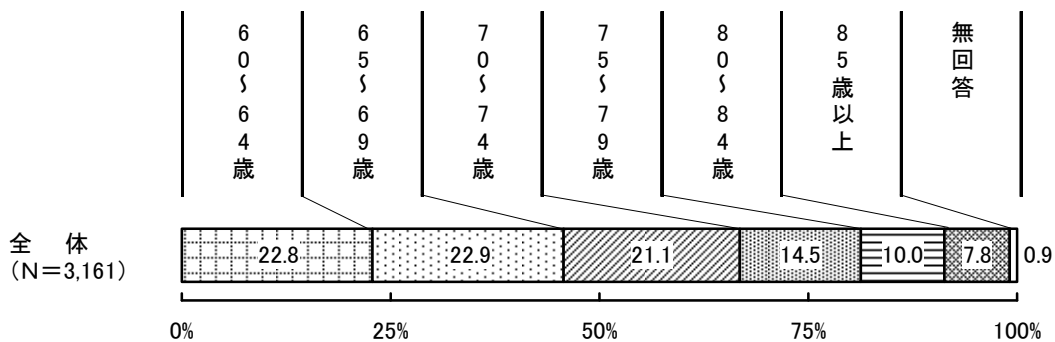
#### 1. 回答者の属性

- ◇回答者は「男性」41.0%、「女性」58.0%とほぼ4：6の割合。
- ◇『65歳以上』の高齢者は76.3%、そのうち『75歳以上』の後期高齢者は32.3%とほぼ3分の1。

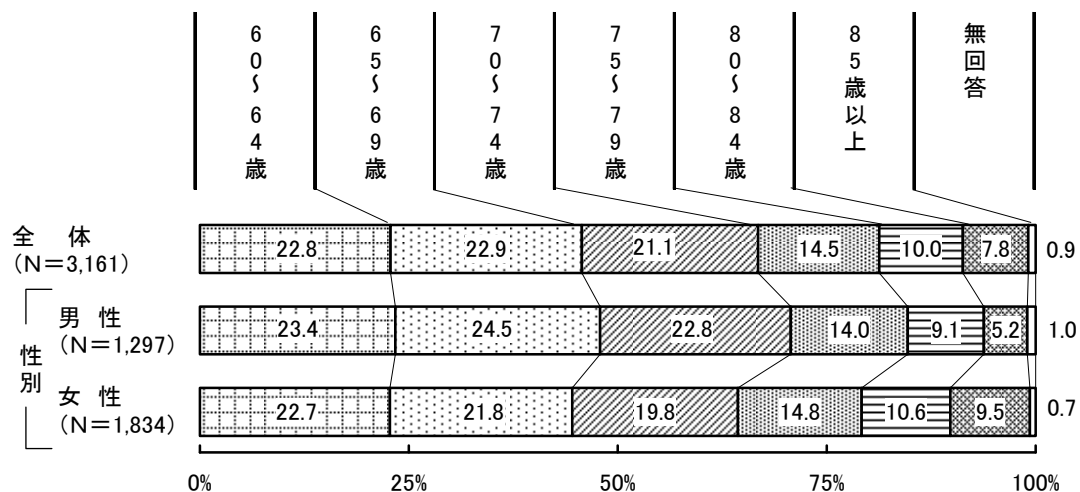
#### 【性別】



#### 【年齢】



#### 【年齢×性別】



## 2. 世帯状況

### (1) 世帯構成

◇65 歳以上の高齢者のみの世帯に該当する人は 1,455 人、そのうち「ひとり暮らし世帯」は 33.1%。  
 ◇前回調査の高齢者のみの世帯の割合は 41.3%、今回調査は 46.0%と前回調査よりも増加。

【世帯構成】（経年比較）

		回答数								(%)	
			ひとり暮らし世帯	夫婦だけで、二人とも65歳以上の世帯	夫婦だけで、どちらかが65歳以上の世帯	夫婦だけで、二人とも65歳未満の世帯	あなたとその他の高齢者のみ（65歳以上の方）の世帯	二世帯同居世帯（65歳未満の方がいる世帯）	三世帯同居世帯（65歳未満の方がいる世帯）	その他の世帯	無回答
全体		3,161 100.0	585 18.5	914 28.9	286 9.0	189 6.0	93 2.9	604 19.1	139 4.4	288 9.1	63 2.0
経年比較	平成16年度	2,722	17.0	41.6		2.5		20.7	6.1	10.7	1.2
	平成13年度	2,881	19.1	40.8		5.0		18.7	3.0	11.4	1.9
	平成10年度	12,546	18.3	39.9		3.3		36.4			2.1
み高齢者の世帯	平成19年度	1,455	33.1	62.7	/		4.3	/		-	
	平成16年度	1,125	33.9	61.4	/		4.7	/		-	

### (2) 住居形態

◇「持ち家一戸建て」（52.7%）と「分譲マンション」（17.1%）を合わせた持ち家所有が約7割。  
 ◇ひとり暮らし世帯は「賃貸マンション、アパート」が 42.6%と最も高い。

### (3) 世帯収入

◇世帯全員の年間総収入は「200～300 万円未満」が 18.3%、「300～400 万円未満」が 16.9%、「100～200 万円未満」が 15.7%、「400～600 万円未満」が 12.8%。  
 ◇ひとり暮らし世帯では「100～200 万円未満」が 33.5%と最も高い。

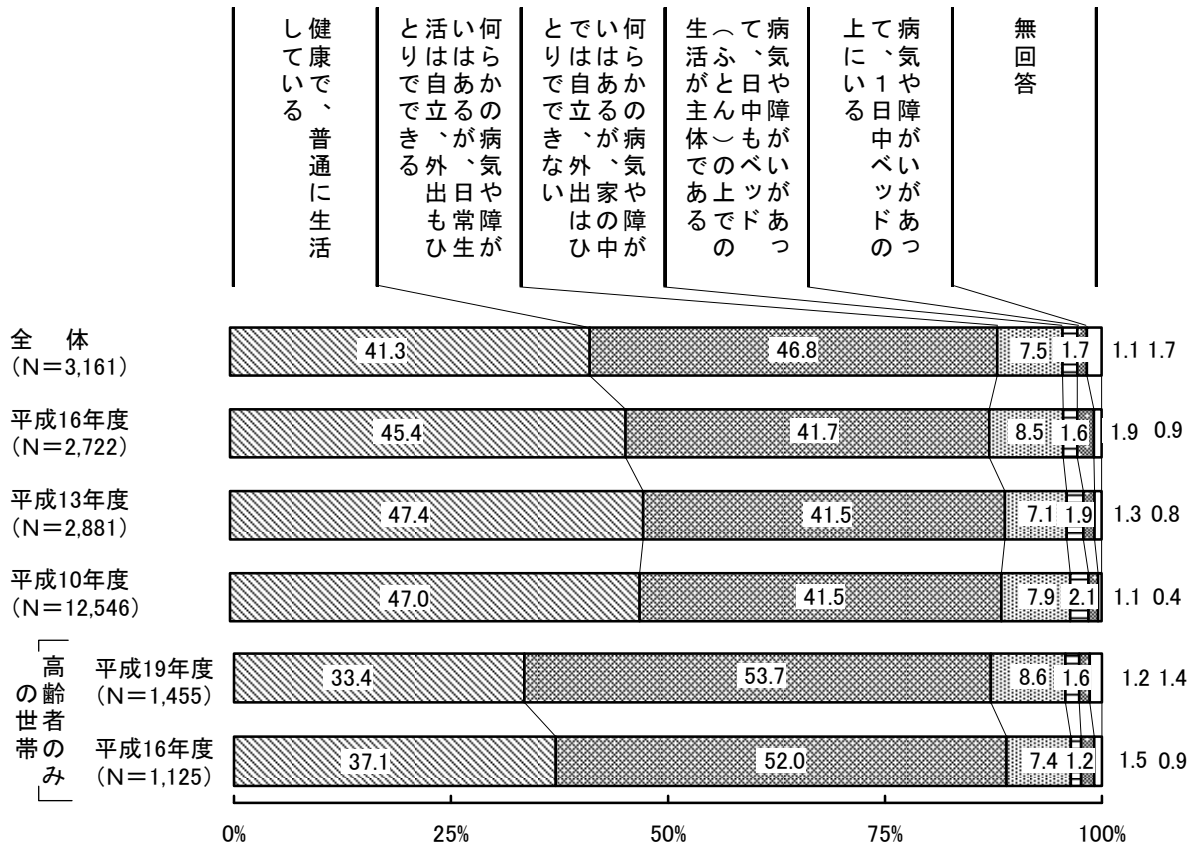
### 3. 健康状態と受診状況

#### (1) 健康状態

◇「健康で、普通に生活」41.3%、「何らかの病気はあるが、日常生活は自立、外出もひとりのできる」46.8%と自立した生活をしている人は88.1%。

◇高齢者のみの世帯で自立した生活をしている人は87.1%、前回調査よりもやや減少。

【健康状態】(経年比較)



#### (2) 健康のための取り組み

◇健康のための取り組みは「食事や栄養のバランス」「健康診断などを定期的にする」「早寝、早起きなど規則正しい生活」「十分な睡眠・休養をとる」。

◇男性は「散歩」「ウォーキング」など身体を動かすことと「酒や煙草の量」、女性は「食事や栄養のバランス」「ビタミン剤や強壮剤などを飲む」「趣味や習い事」などの取り組みが多い。

#### (3) 健康のために知りたいこと

◇「がんや高血圧、糖尿病など生活習慣病の予防について」が38.3%、「認知症の予防について」が34.0%。

(4) 病院の受診状況

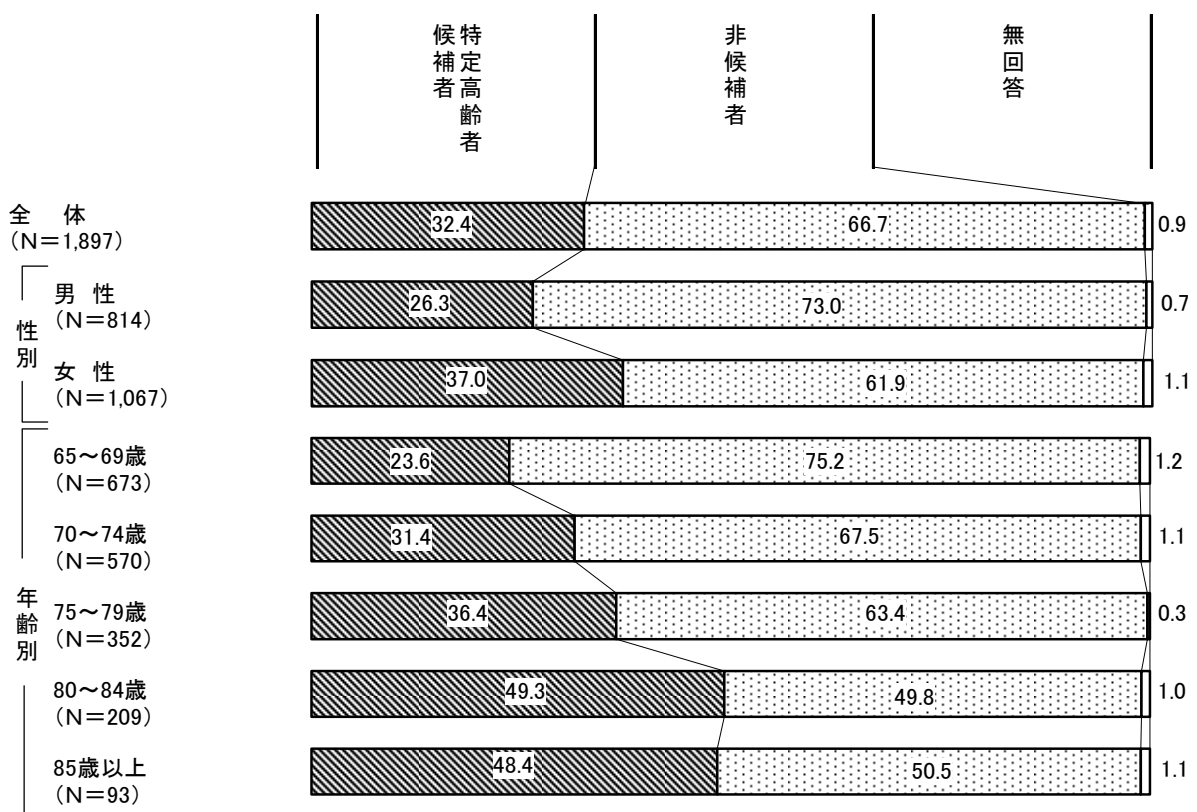
◇ここ 1 年間の病院の受診頻度は「月に 1 回」が 40.3%で最も高い。  
 ◇男性よりも女性の方が病院などを受診する頻度がやや多い。  
 ◇1 年間に病院を受診した人の病名は「歯科」(40.7%)と「高血圧」(37.0%)が主名病名。  
 ◇男性は「糖尿病」「脳血管疾患」、女性は「骨粗しょう症」「腰痛症」で受診した割合が高い。

(5) 特定高齢者候補者

65 歳以上の高齢者で、現在要介護認定の申請をしていない、または非該当（自立）とされた人を対象に、25 項目からなる介護予防のための基本チェックリストに回答してもらったもので、判定基準に該当する方を特定高齢者候補者としている。

◇該当率は、1,897 人中 614 人で 32.4%。男性よりも女性に、また年齢が上がるにしたがい特定高齢者候補者が多くなり、80 歳以上では約半数が該当。  
 ◇健康状態別では、健康な人ほど特定高齢者候補者の割合は低くなり、健康で、普通に生活している人では 14.4%となっている。

【特定高齢者候補者】



4. 日常生活

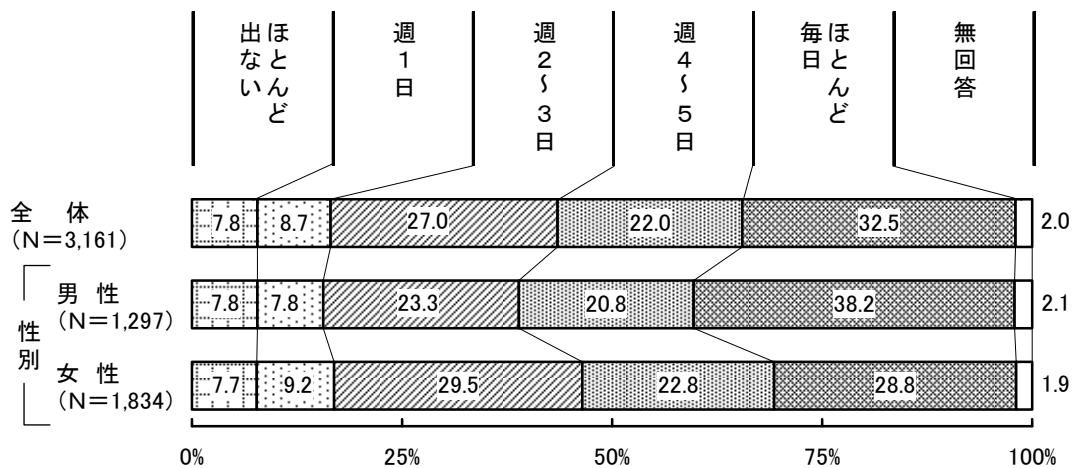
(1) 近所付き合い

◇「ほとんどつきあいが無い」(8.0%)と「道で会えばあいさつする程度」(33.6%)を合わせた近所付き合いが少ない人は41.6%。「話や訪問しあう人がいる」(16.7%)と「悩みや困ったときに頼みあうほどの人がいる」(8.0%)を合わせた近所付き合いが密な人は24.7%。  
 ◇男性は「道で会えばあいさつする程度」の付き合いが多く、女性よりも近所付き合いが少ない。  
 ◇ひとり暮らし世帯では「悩みや困ったときに頼みあうほどの人がいる」が10.6%とその他の世帯に比べて高い。

(2) 外出

◇外出の日数は「ほとんど毎日」が32.5%で最も高く、男性の方が「ほとんど毎日」外出している人が多い。  
 ◇外出の目的は「買い物・食事」が62.9%で最も高く、次いで「趣味や運動・散歩」が48.4%。  
 ◇よく利用する交通機関は「バス(路線バス)」(58.4%)。  
 ◇男性は「自家用車(自分で運転)」(56.7%)、女性は「バス(路線バス)」(66.0%)を利用。

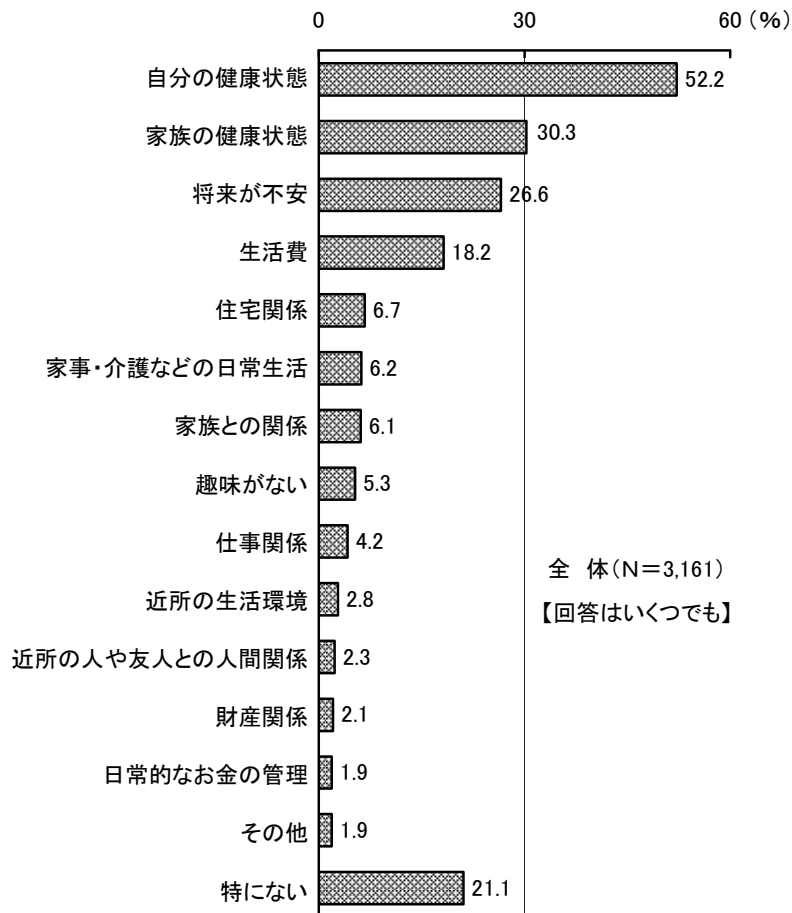
【外出の日数×性別】



(3) 心配ごとや悩みごと

- ◇「自分の健康状態」が 52.2%で最も高く、次いで「家族の健康状態」(30.3%)、「将来が不安」(26.6%)、「生活費」(18.2%)。
- ◇健康で普通に生活している人では「特にない」が 36.0%と最も高いが、心配ごととしては自分や家族の健康状態や将来への不安などが2割台。
- ◇「将来が不安」や「生活費」が平成 10 年度の調査から徐々に増加。
- ◇悩みや心配ごとの相談先は「家族や親族」(60.5%)。平成 10 年度からの調査と比べて、「家族や親族」はわずかに減少し、「友人や知人、近所の人」がわずかに増加。

【心配ごとや悩みごと】



## 5. 生きがいと社会参加

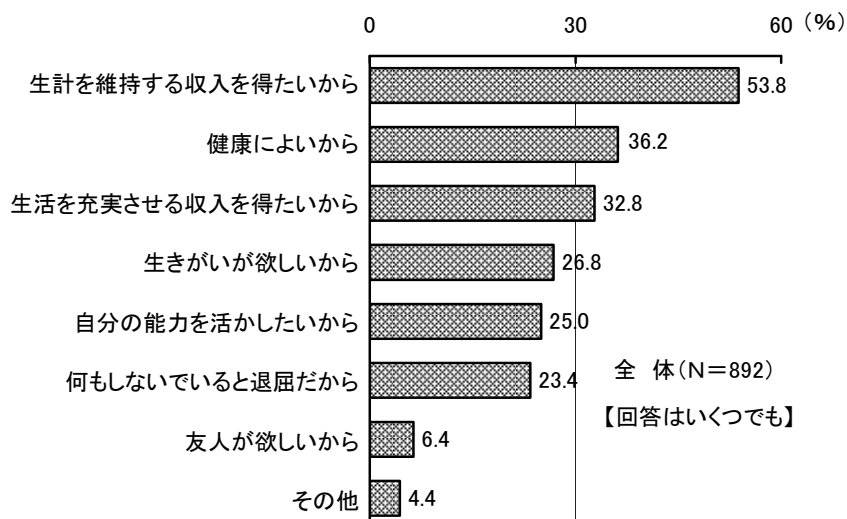
## (1) 生きがいを感じること

- ◇生きがいを感じることは「旅行」(40.6%)、「家族との団らん」(37.6%)、「趣味の活動」(35.1%)などで「特にない」は11.9%。
- ◇男性は「働くこと(仕事)」や「スポーツ・運動」が女性より高く、女性は「友人や近所とのつきあい」が男性よりも高い。
- ◇平成10年度からの調査と比べると「働くこと(仕事)」や「家族との団らん」「友人や近所とのつきあい」「旅行」などに生きがいを感じる人は減少傾向。

## (2) 仕事

- ◇現在、仕事を『している』人は28.2%で、「仕事をしていない」人は68.6%。
- ◇仕事をしている理由は「生計を維持する収入を得たいから」(53.8%)、「健康によいから」(36.2%)、「生活を充実させる収入を得たいから」(32.8%)。
- ◇仕事をしていない人で、今後も「仕事はしたくない」(42.6%)と無回答(15.4%)を除く42.0%の人が就労意向を持つ。その理由として「健康のために仕事をしたい」が16.2%で最も高い。

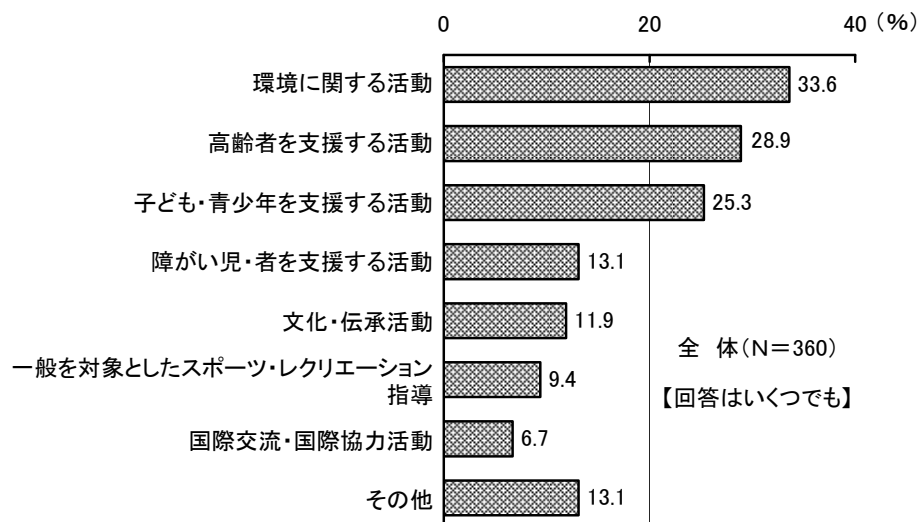
## 【仕事をしている理由】



(3) ボランティア活動

- ◇現在、ボランティア活動をしている人は 11.4%、以前活動をしていた人は 8.7%とボランティアの経験者は 20.1%。
- ◇健康で普通に生活している人でボランティア活動をしている人は 16.6%、経験者も含めると 24.9%と全体の約4分の1。
- ◇ボランティア活動をしている人の活動への参加状況は「月1回程度」が 29.7%、「週1回程度」20.8%、「週2～3回程度」13.9%、「2～3カ月に1回程度」11.7%。
- ◇ボランティア活動の内容は「環境に関する活動」(33.6%)、「高齢者を支援する活動」(28.9%)、「子ども・青少年を支援する活動」(25.3%)。
- ◇ボランティア活動を現在していない人のうち 29.9%の人が参加意欲を持つ。その一方で 31.1%の人が健康・体力に自信がないなどで「やれない」としている。「やりたいとは思わない」人は 18.9%。

【ボランティア活動の内容】



(4) 文化教養に関する活動

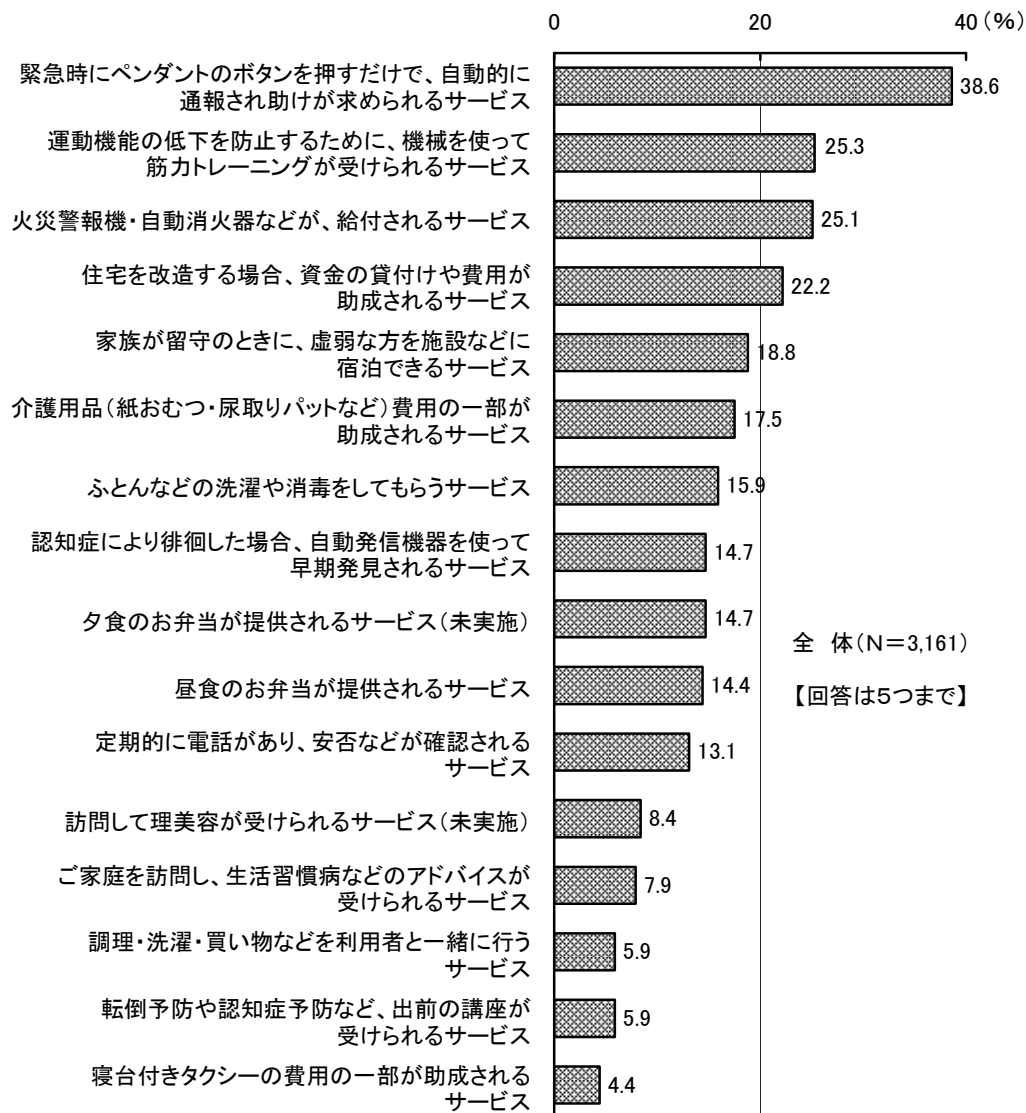
- ◇文化教養に関する活動に現在参加している人は 32.8%、「現在参加していないが、今後参加したい」は 25.4%、「参加したくない」は 21.5%。
- ◇健康で普通に生活している人の参加は 38.0%で最も高く、また今後の参加意向も高い。

## 6. 福祉サービス

## (1) 今後受きたいサービス

◇今後受きたい福祉サービスは、「緊急時にペンダントのボタンを押すだけで、自動的に通報され助けが求められるサービス」(38.6%)、「運動機能の低下を防止するために、機械を使って筋力トレーニングが受けられるサービス」(25.3%)、「火災警報機・自動消火器などが、給付されるサービス」(25.1%)、「住宅を改造する場合、資金の貸付けや費用が助成されるサービス」(22.2%)。

## 【今後受きたいサービス】



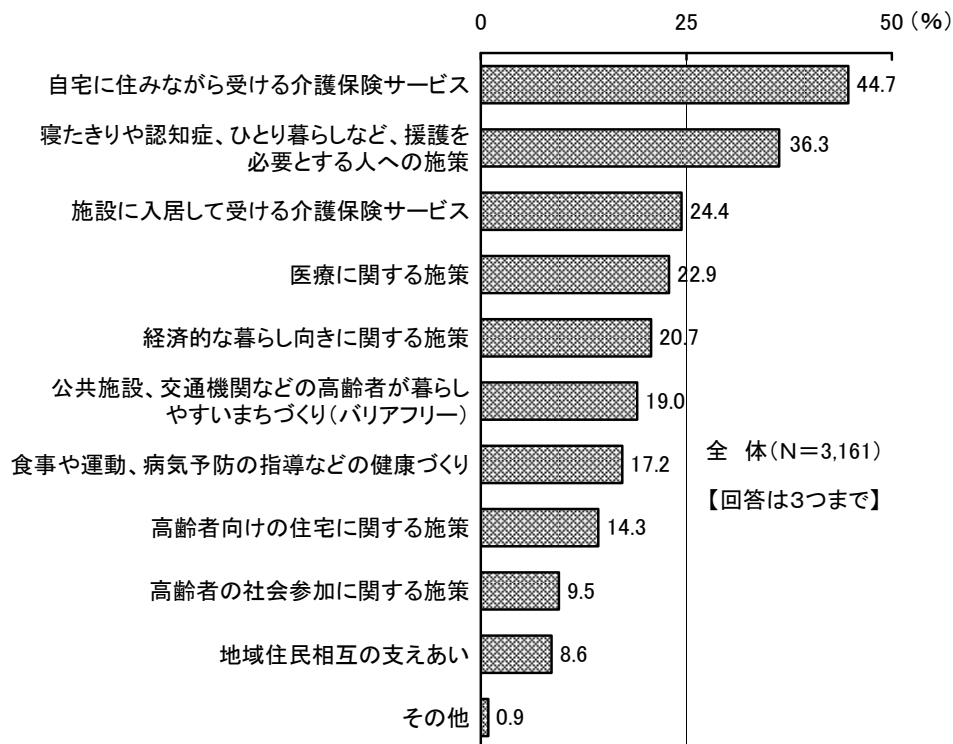
(2) 保健・医療・福祉の情報源

◇介護保険をはじめ、保健・医療・福祉などについての情報を知る手段は「テレビやラジオ、新聞、雑誌」(66.9%)と「市政だより」(64.9%)の2つが主な情報源。

(3) 行政への要望

◇高齢者施策の充実に向けて行政に特に力を入れてほしいのは「自宅に住みながら受ける介護保険サービス」(44.7%)、「寝たきりや認知症、ひとり暮らしなど、援護を必要とする人への施策」(36.3%)、「施設に入居して受ける介護保険サービス」(24.4%)など、介護などの援護を要する人に対するサービスの充実が上位。

【行政への要望】



## 第2章 介護保険サービス共通設問

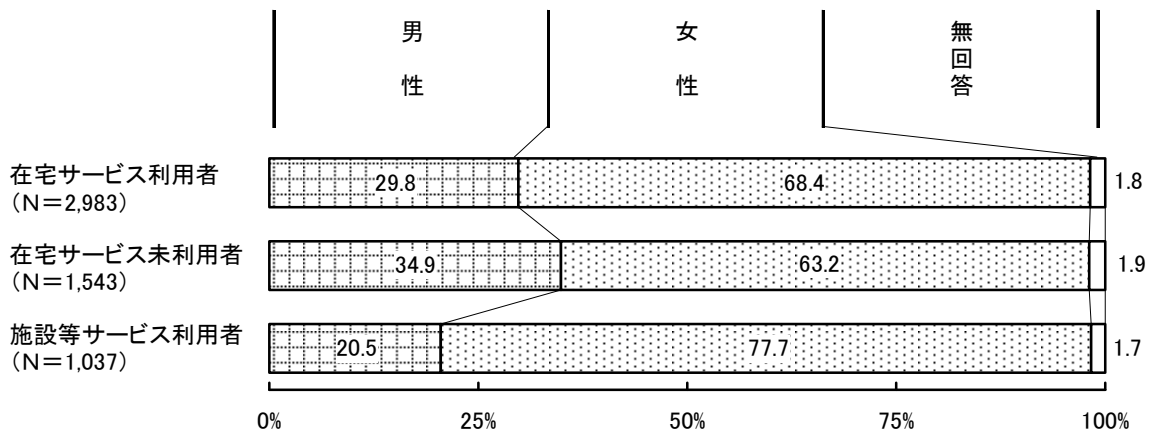
「在宅サービス利用調査」「在宅サービス未利用調査」「施設等サービス利用調査」の3調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

### 1. 回答者の属性

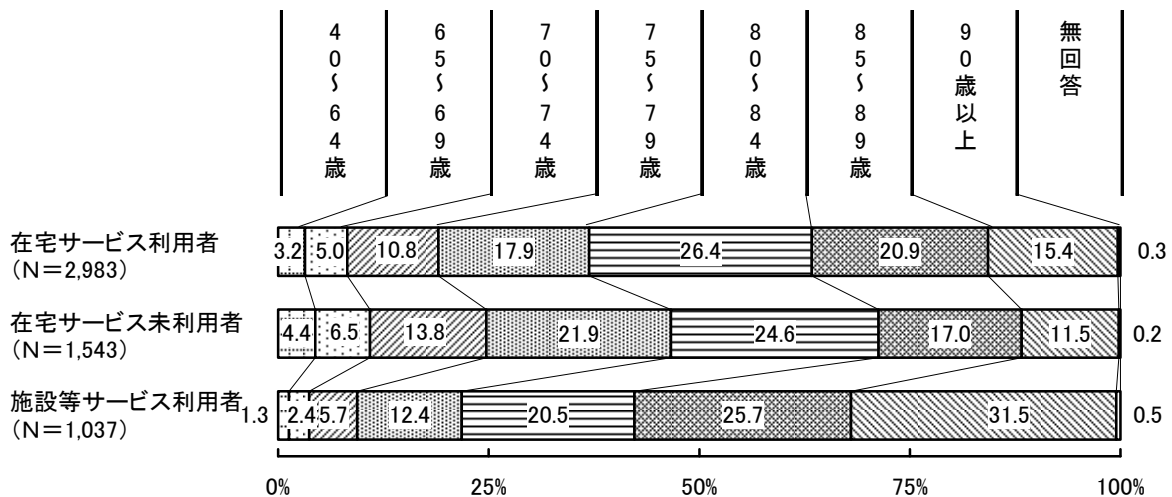
#### (1) 性別、年齢

- ◇在宅サービス利用者・未利用者とも「男性」約3割、「女性」約7割、施設等サービス利用者は「男性」約2割、「女性」約8割。
- ◇『75歳以上』の後期高齢者の割合は在宅サービス利用者では80.6%、在宅サービス未利用者では75.0%、施設等サービス利用者では90.1%。

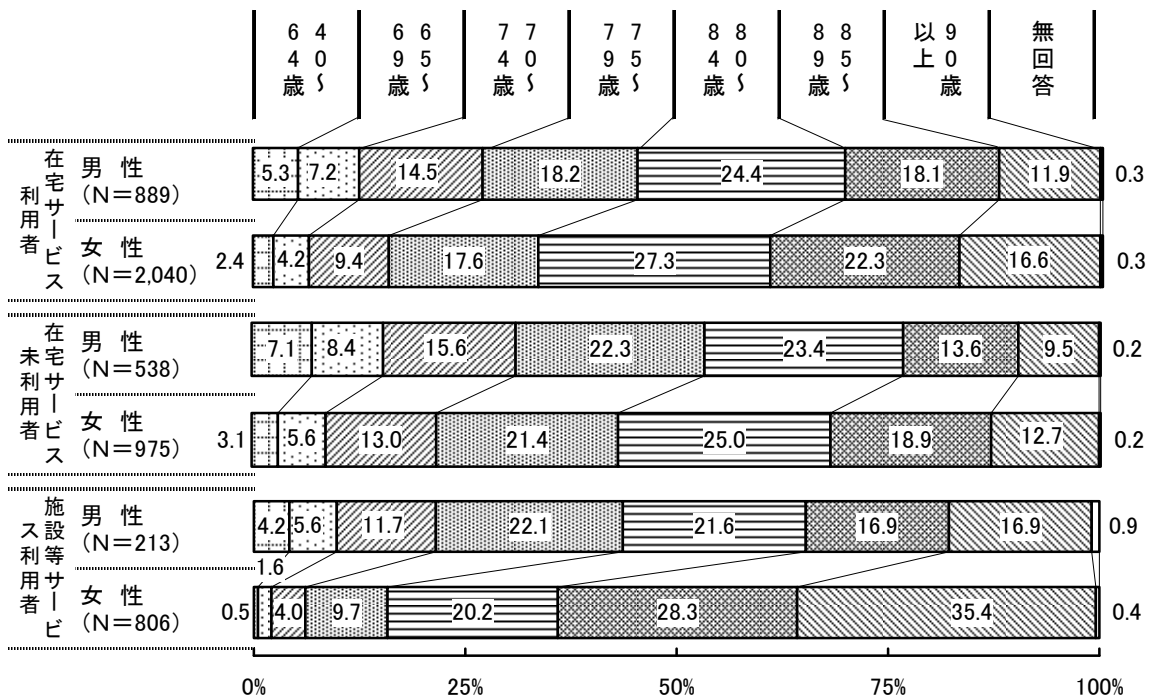
#### 【性別】



#### 【年齢】



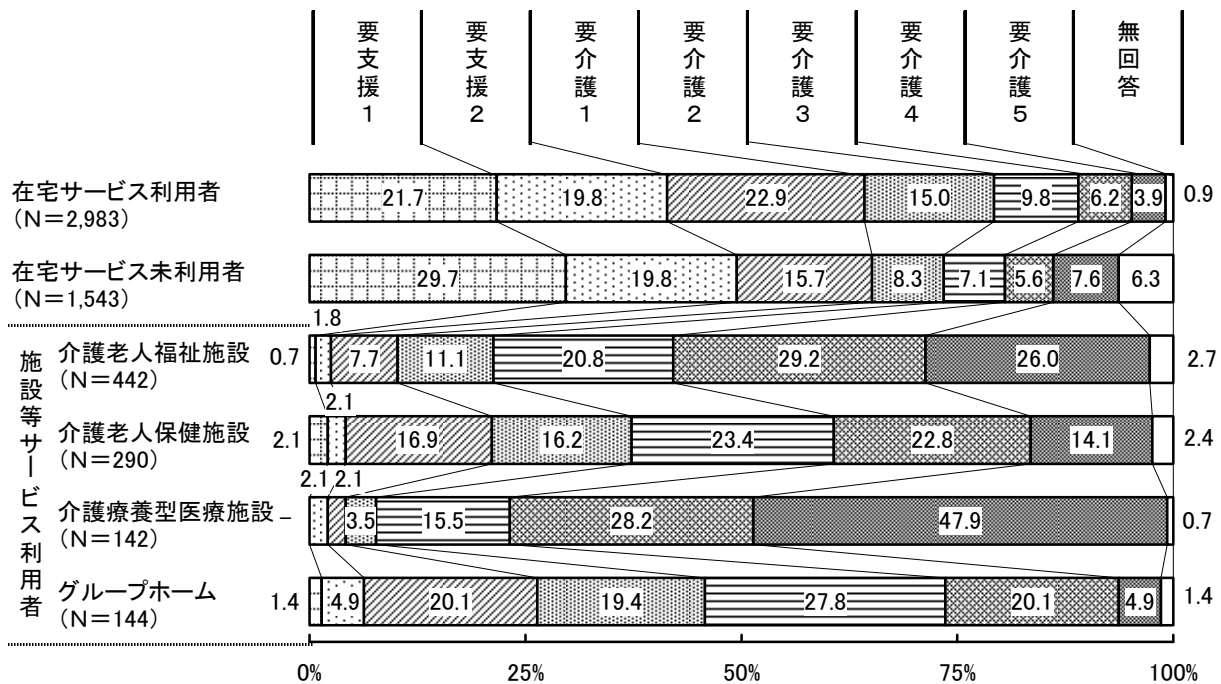
【年齢×性別】



(2) 要介護度

◇在宅サービス利用者は「要介護1」(22.9%)、未利用者は「要支援1」(29.7%)が最も多く、いずれも『要介護1以下』で約65%を占める。  
 ◇施設等サービス利用者では要介護度が重い人が多く、特に介護療養型医療施設では『要介護4・5』が76.1%。しかし、グループホームは『要介護1～3』が67.3%と、施設等サービス利用者の中では比較的要介護度は低い。

【要介護度】

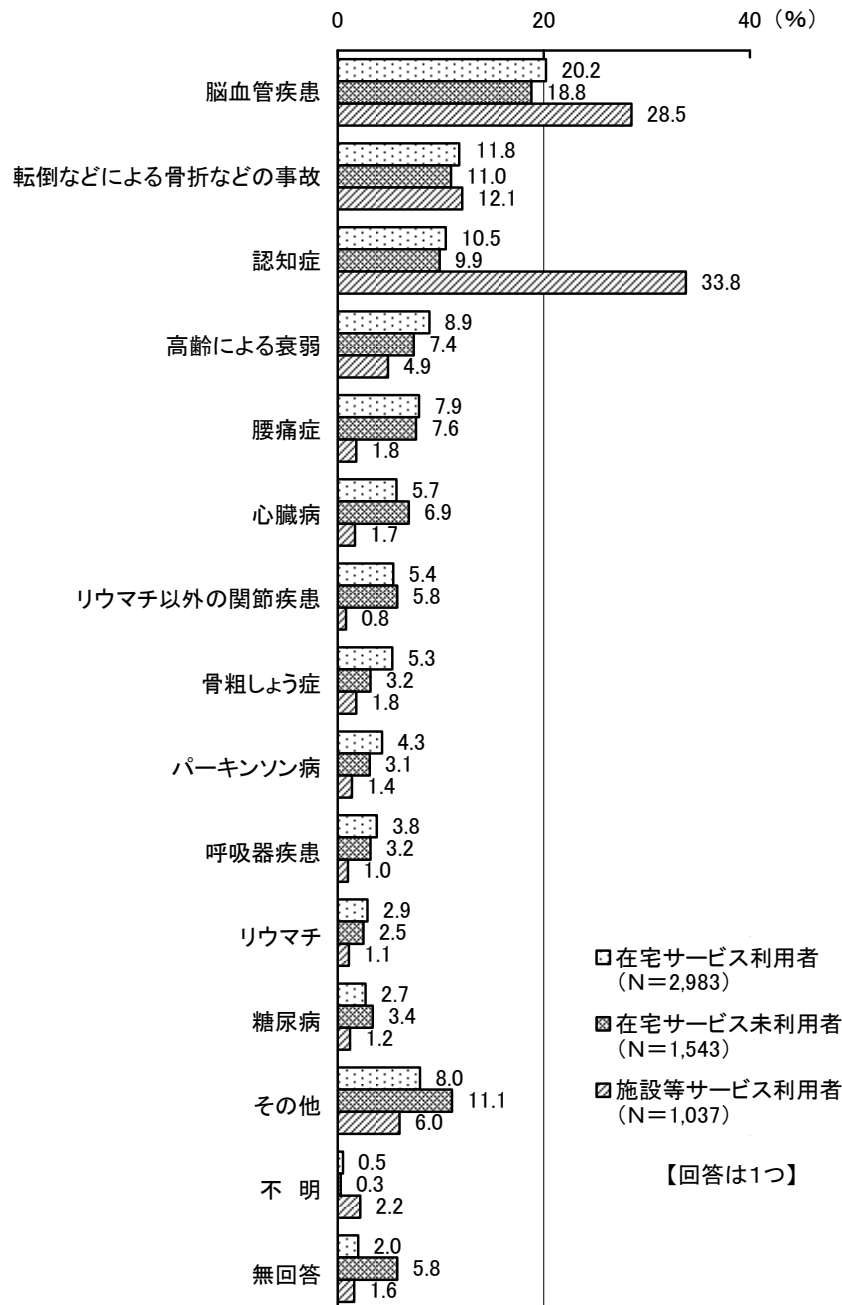


(3) 要介護状態になった主な原因

◇要介護状態になった主な原因は「脳血管疾患」「転倒などによる骨折などの事故」「認知症」など。施設等サービス利用者では「認知症」(33.8%)、「脳血管疾患」(28.5%)が在宅サービス利用者・未利用者に比べて高い。

◇男性は「脳血管疾患」、女性は「転倒などによる骨折などの事故」がそれぞれ高い。「認知症」は在宅サービス利用者・未利用者の男女とも1割程度であるのに対し、施設等サービス利用者では男性が29.1%、女性が35.1%と特に女性で高い。

【要介護状態になった主な原因】



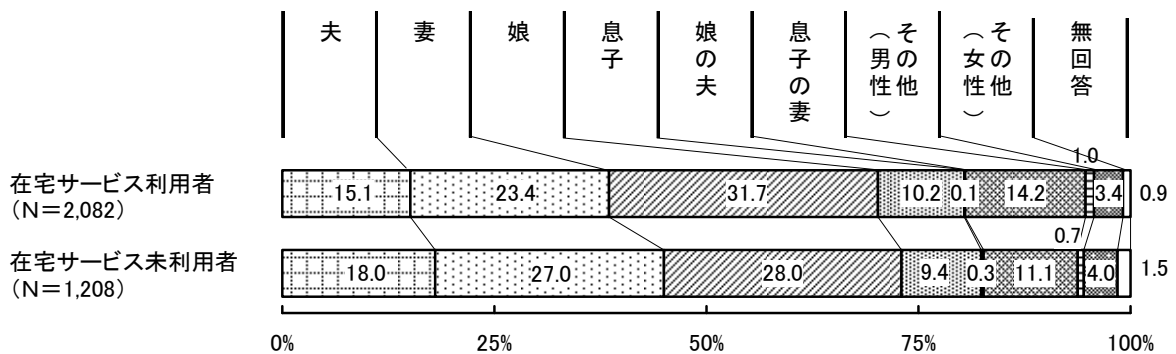
## 2. 介護者

「在宅サービス利用調査」「在宅サービス未利用調査」の2調査において、日ごろ家族の介護を受けている方に対して、その家族の方に回答をもらった。

### (1) 主な介護者

◇主な介護者は「娘」「妻」「夫」。未利用者では「妻」や「夫」の介護が利用者よりも高い。  
 ◇介護者は「同居」が約8割、「別居」が約2割。

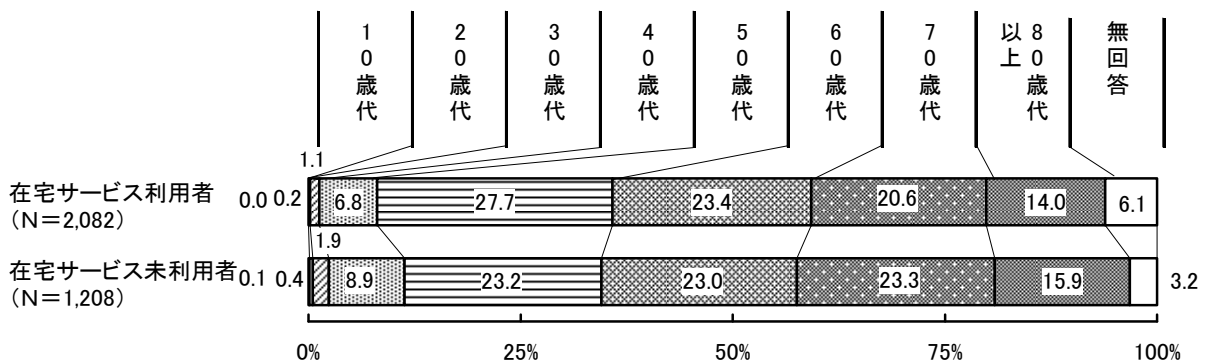
【日頃の介護者】



### (2) 介護者の年齢

◇主な介護者の年齢は、「50歳代」「60歳代」「70歳代」。

【介護者の年齢】



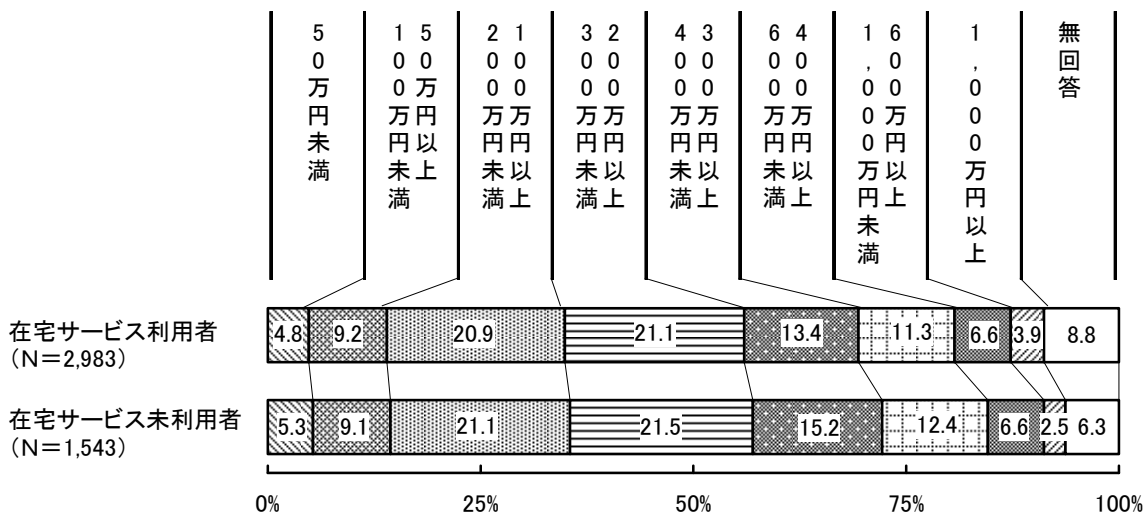
※在宅サービス利用者の「10歳代」の「0.0」は単位未満を示す

### 3. 経済状況と介護保険料

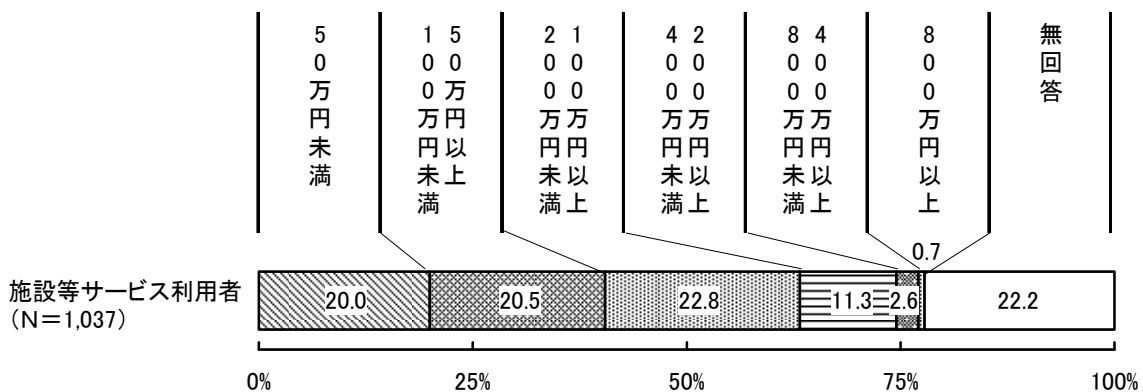
#### (1) 世帯収入

◇世帯の年間総収入額は在宅サービス利用者・未利用者とも「100万円以上 200万円未満」「200万円以上 300万円未満」がそれぞれ約2割。  
 ◇施設等サービス利用者の年間総収入は「100万以上 200万円未満」が22.8%、「50万以上 100万円未満」が20.5%、「50万円未満」が20.0%。

【世帯の年間総収入】



【本人の年間総収入】



#### (2) 介護保険料

◇介護保険料について、在宅サービス利用者・未利用者では「今までどおり40歳以上で負担すべき」（利用者29.6%、未利用者26.8%）と「もっと若い人にも負担してもらい、利用できる人も広げる」（利用者25.9%、未利用者24.1%）の二つの考えが多い。  
 ◇施設等サービス利用者では「もっと若い人にも負担してもらい、利用できる人も広げる」が29.2%、「わからない」が28.3%と同程度。

#### 4. 相談先

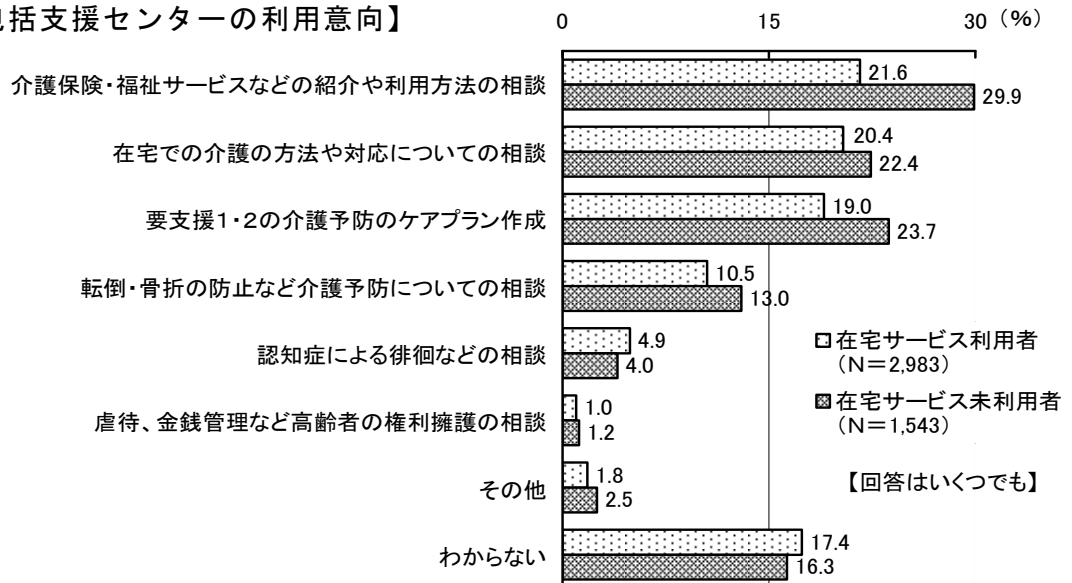
##### (1) 介護や福祉サービスなどの相談先

◇介護や福祉サービスなどの相談先は、在宅サービス利用者では「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が 69.4%で最も高い。  
 ◇未利用者では「区役所の保険福祉窓口や地域包括支援センターなどの市の相談窓口」が 54.8%で最も高い。

##### (2) 地域包括支援センターの利用意向

◇地域包括支援センターの今後の利用意向は「介護保険・福祉サービスなどの紹介や利用方法の相談」「在宅での介護の方法や対応についての相談」「要支援1・2の介護予防ケアプランの作成」などが上位。いずれも在宅サービス利用者よりも未利用者の割合が高い。

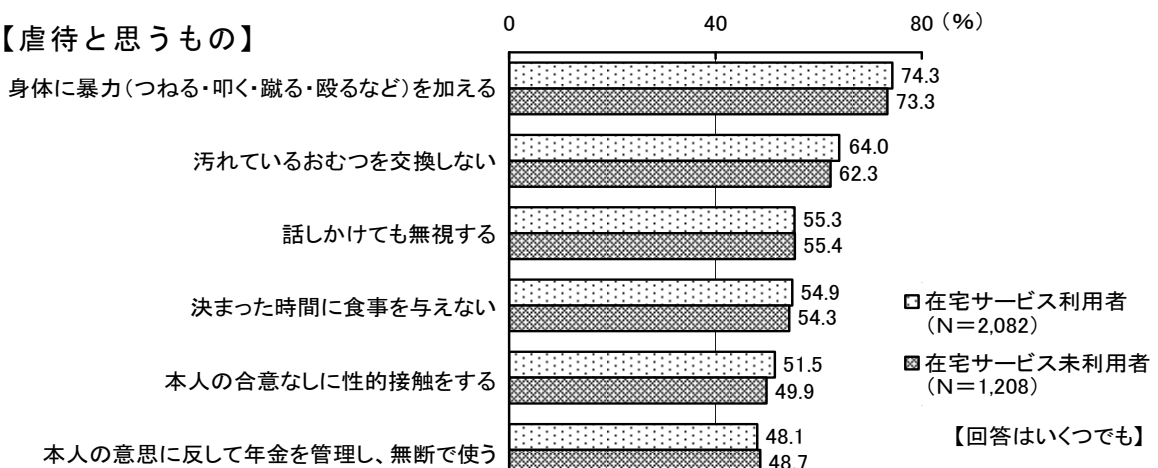
【地域包括支援センターの利用意向】



##### (3) 虐待と思うもの

◇在宅サービス利用者・未利用者とも最も高いのは「身体に暴力（つねる・叩く・蹴る・殴るなど）を加える」で7割超。

【虐待と思うもの】



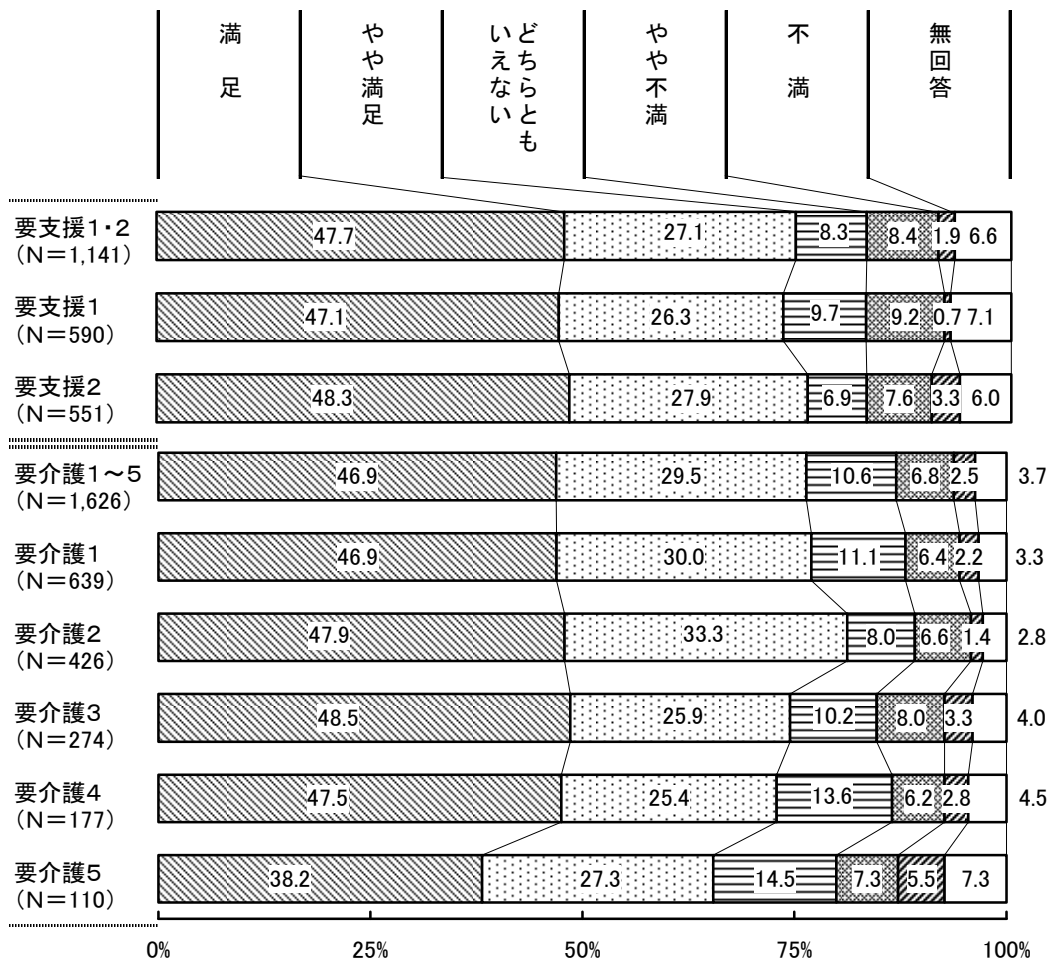
## 第3章 在宅サービス利用者調査

### 1. 介護サービス

#### (1) 介護予防・介護保険サービス内容の満足度

- ◇要支援1・2の人を対象にした介護予防サービスの満足度は74.8%（「満足」(47.7%) + 「やや満足」(27.1%)）、要介護1～5の人を対象にした介護サービスの満足度は76.4%（「満足」(46.9%) + 「やや満足」(29.5%)）、いずれも7割以上が『満足』と回答。
- ◇『満足』が最も高いのは「要介護2」で81.2%、最も低いのは「要介護5」で65.5%。

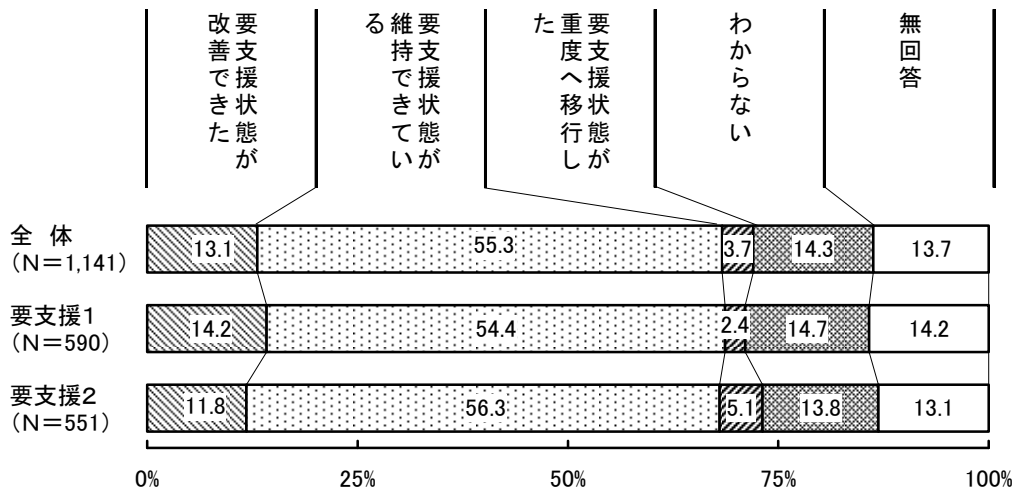
【介護予防・介護保険サービス内容の満足度×要介護度別】



(2) 介護予防サービスの効果

◇要支援1・2を対象にした介護予防サービスを利用している人は、「要支援状態が維持できている」が 55.3%、「要支援状態が改善できた」が 13.1%と 68.4%がその効果を実感。

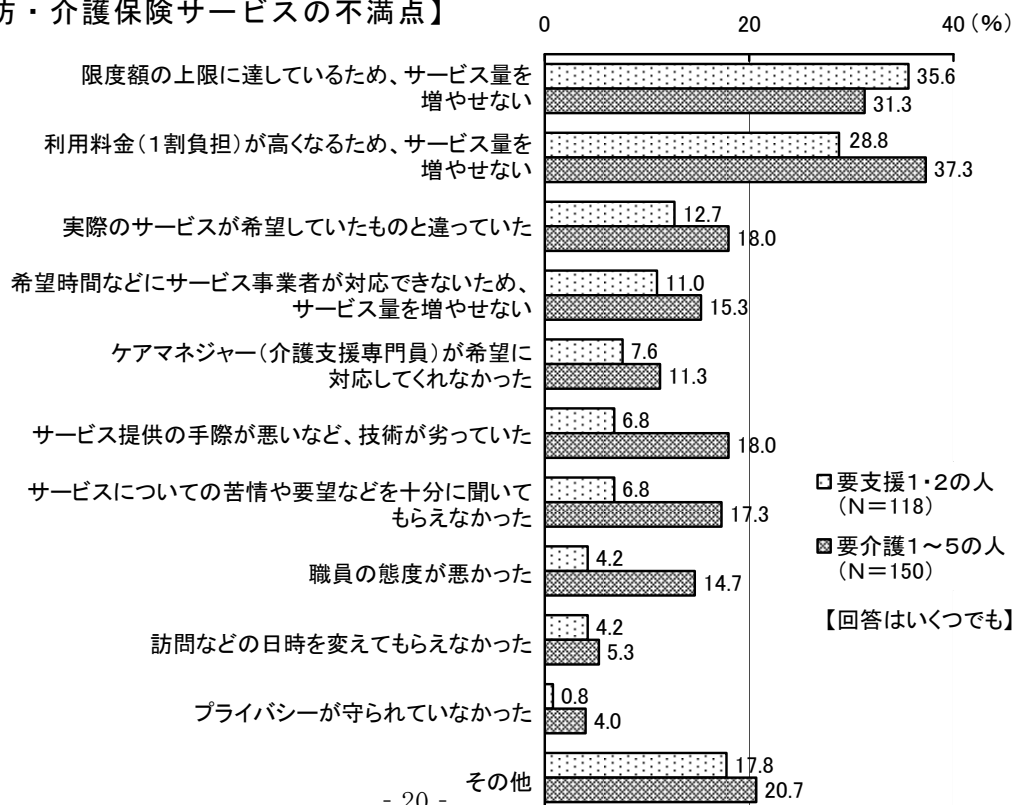
【介護予防サービスの効果・要支援1および2×要介護度別】



(3) 介護予防・介護保険サービスの不満点

◇介護予防・介護保険サービスの不満点は、要支援1・2では「限度額の上限に達しているため、サービス量を増やせない」(35.6%)、要介護1～5では「利用料金(1割負担)が高くなるため、サービス量を増やせない」(37.3%)が最も高い。

【介護予防・介護保険サービスの不満点】



2. 今後の介護

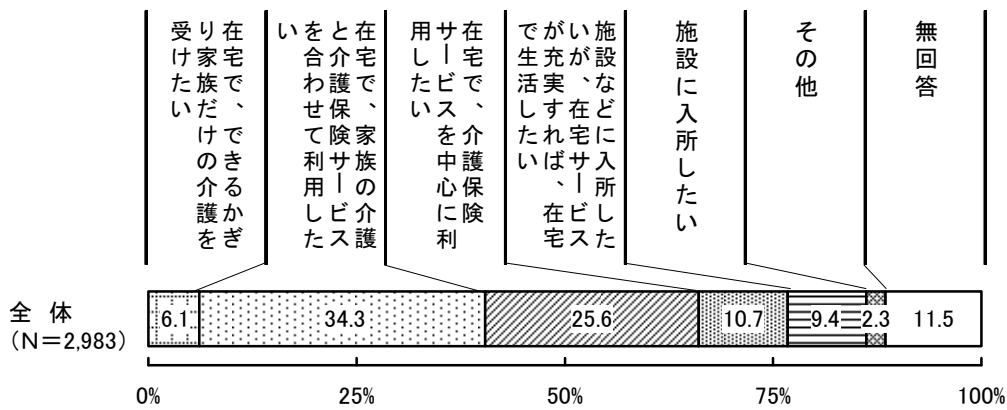
◇本人が今後受けてみたい介護は、「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを合わせて利用したい」(34.3%)、「在宅で、介護保険サービスを中心に利用したい」(25.6%)。「施設に入所したい」は9.4%。

◇介護者が希望する今後の介護の仕方は、「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを合わせて利用させたい」(51.6%)が約5割を占めている。

◇本人と家族の今後の介護についての意向はほぼ合致。

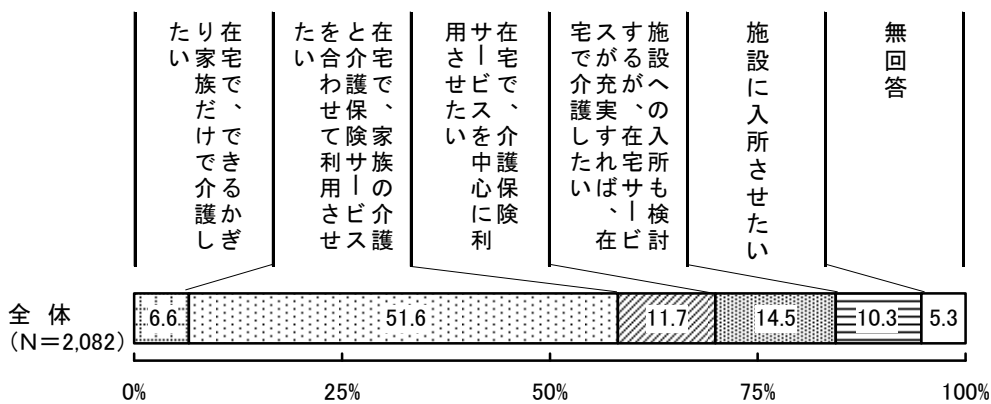
【今後、どのように介護を受けたいか】

◎本人



【今後の介護の仕方】

◎介護者



## 第4章 在宅サービス未利用者調査

### 1. 介護保険サービスの利用

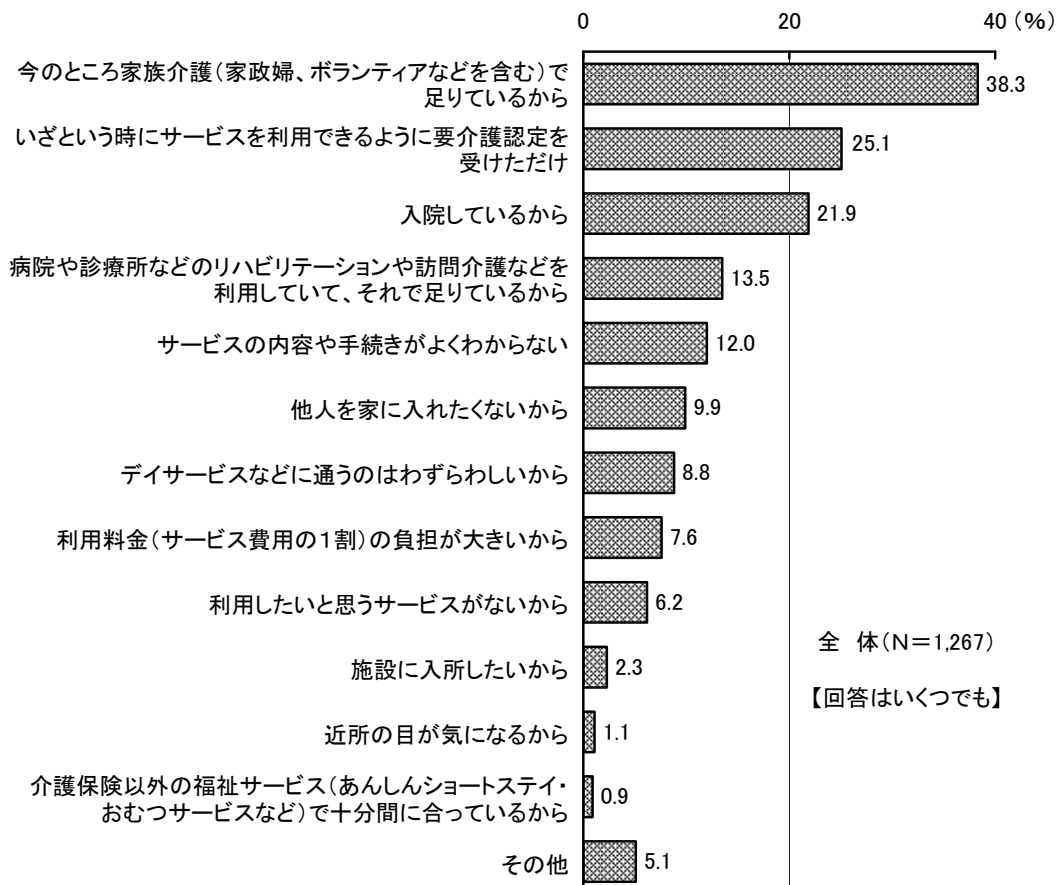
#### (1) 在宅サービスの利用経験

◇在宅サービスの利用経験は、「今までまったく利用していない」(48.5%)と「現在は利用している」(12.2%)を含めた『利用したことがある』は45.9%。

#### (2) 在宅サービスを利用していない理由

◇現在、在宅サービスを利用していない理由は、「今のところ家族介護(家政婦、ボランティアなどを含む)で足りているから」(38.3%)、「いざという時にサービスを利用できるように要介護認定を受けただけ」(25.1%)、「入院しているから」(21.9%)などが上位。

【在宅サービスを利用していない理由】

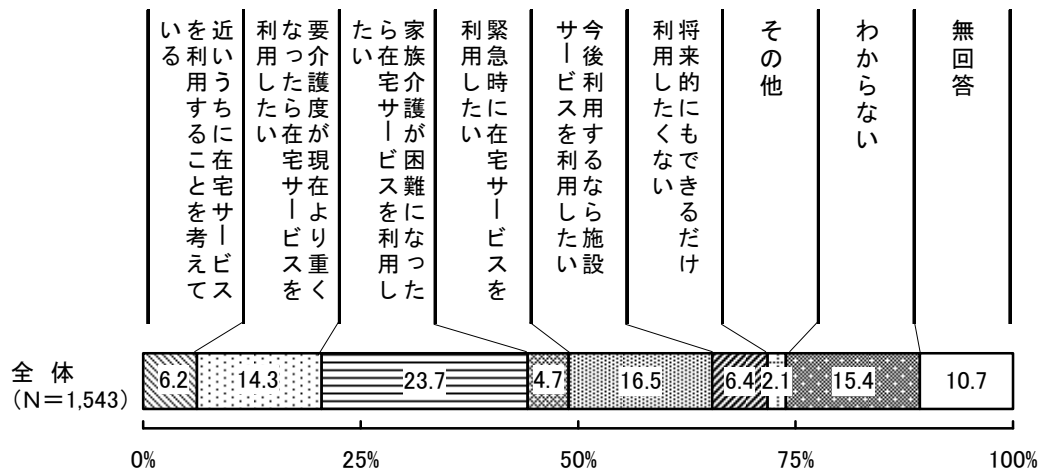


## 2. 今後の介護

### (1) 今後の介護サービスの利用意向

◇今後の介護サービスの利用意向は、「家族介護が困難になったら在宅サービスを利用したい」(23.7%)、「要介護度が現在より重くなったら在宅サービスを利用したい」(14.3%)など在宅サービスの利用を希望する人は約5割。

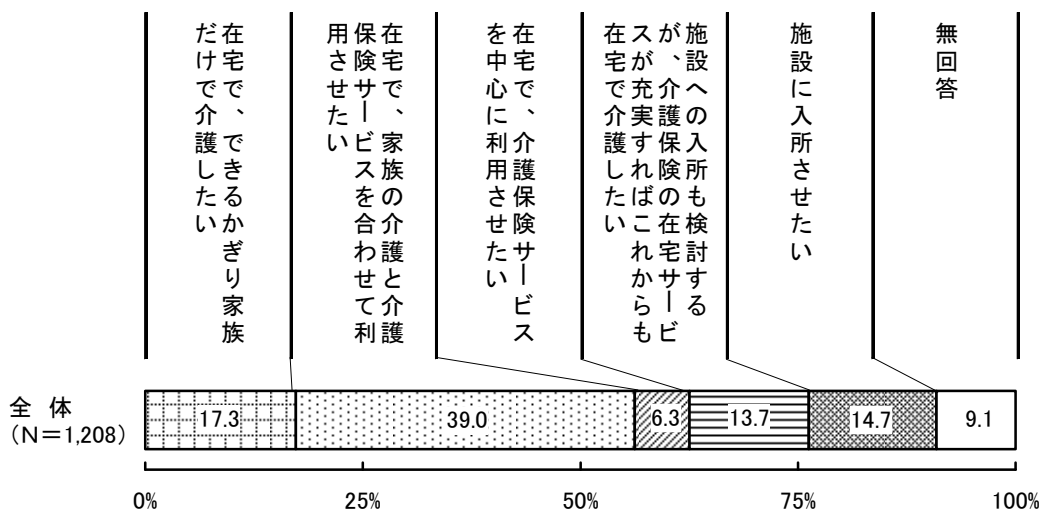
【今後の介護サービスの利用意向】



### (2) 今後の介護の仕方

◇家族（介護者）に対して、今後どのような介護をしていきたいかは、「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを合わせて利用させたい」(39.0%)が約4割を占める。

【今後の介護の仕方】



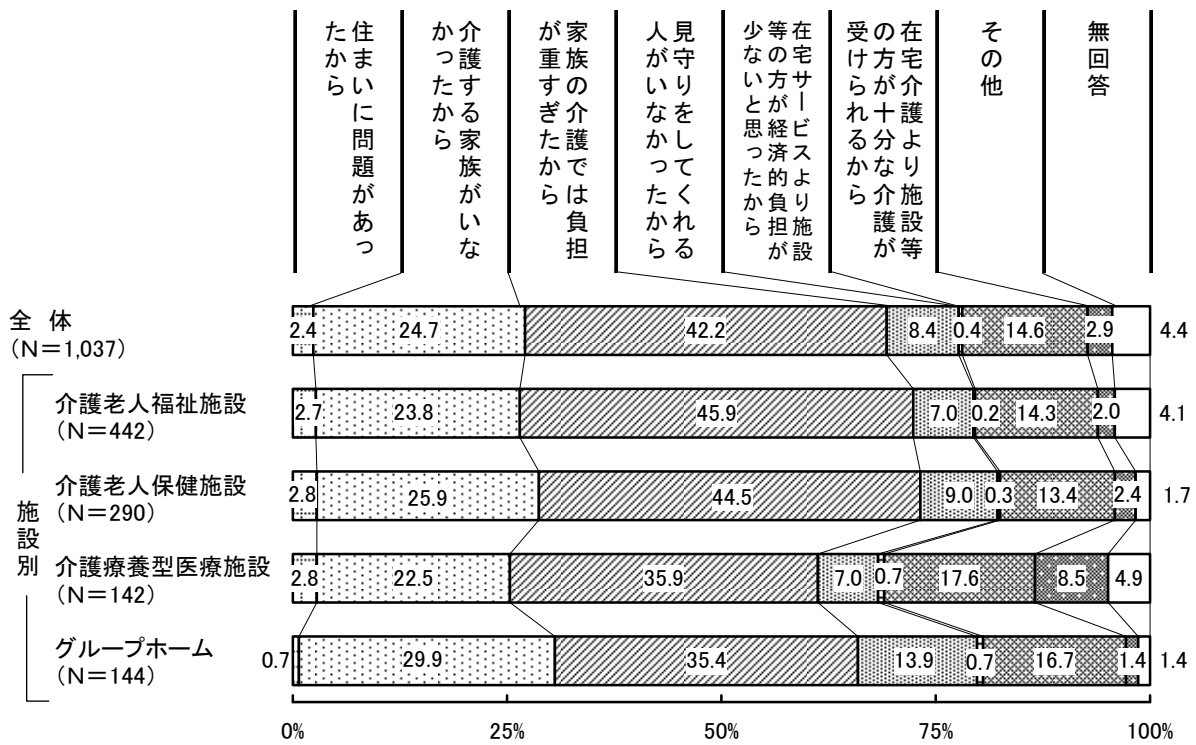
## 第5章 施設等サービス利用者調査

### 1. 介護サービス

#### (1) 施設等サービスを希望した理由

- ◇「家族の介護では負担が重すぎたから」(42.2%) が最も高い。
- ◇グループホームで「介護する家族がいなかったから」が他施設と比べてやや高い。

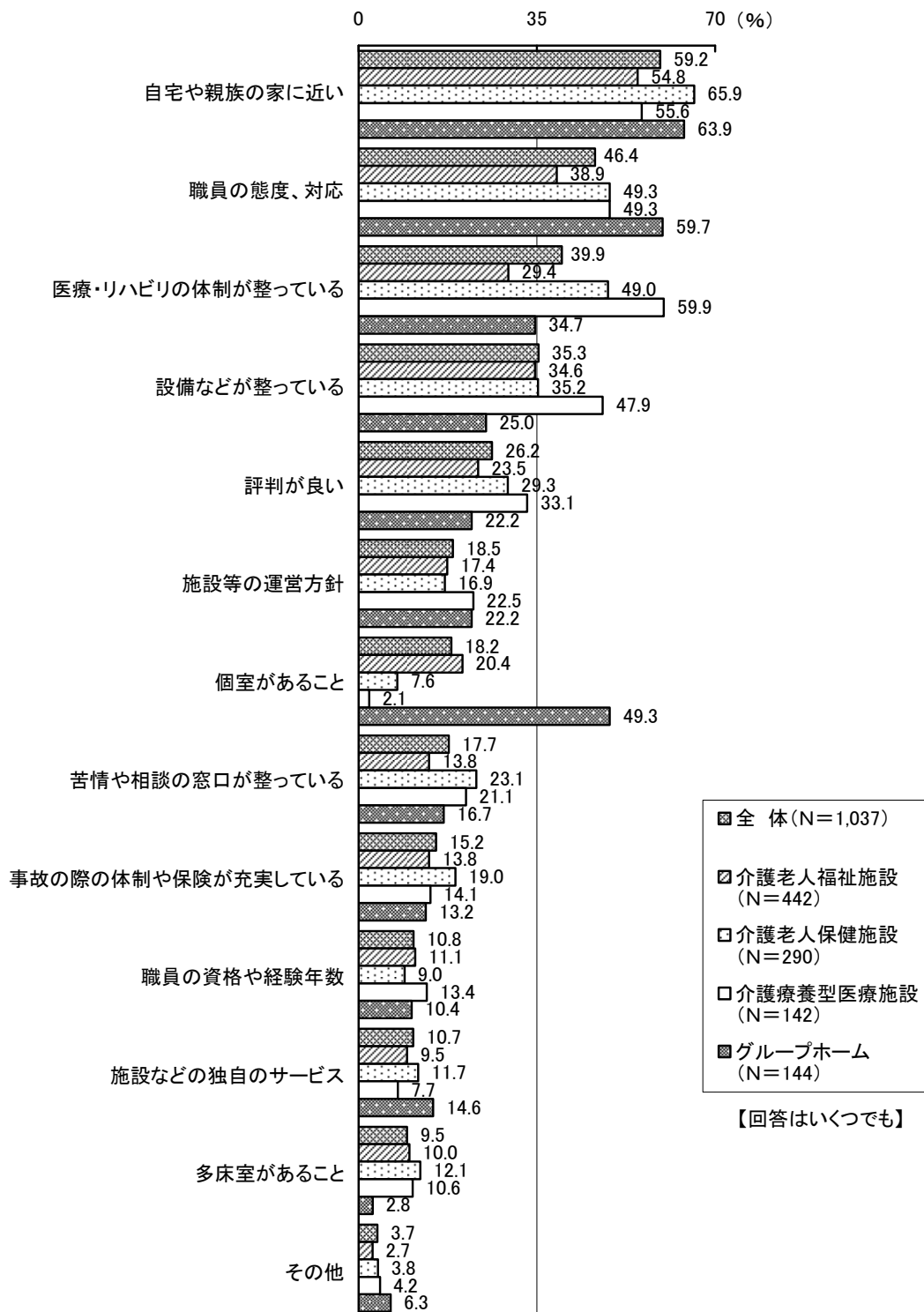
【施設等を希望した理由×施設別】



(2) 施設等を選ぶときに、重視する点

◇施設等を選ぶときに重視する点は、介護老人保健施設では「自宅や親族の家に近い」(65.9%)、介護療養型医療施設では「医療・リハビリの体制が整っている」(59.9%)と「設備などが整っている」(47.9%)、グループホームでは「職員の態度、対応」(59.7%)、「個室があること」(49.3%)が他の施設に比べて高い。

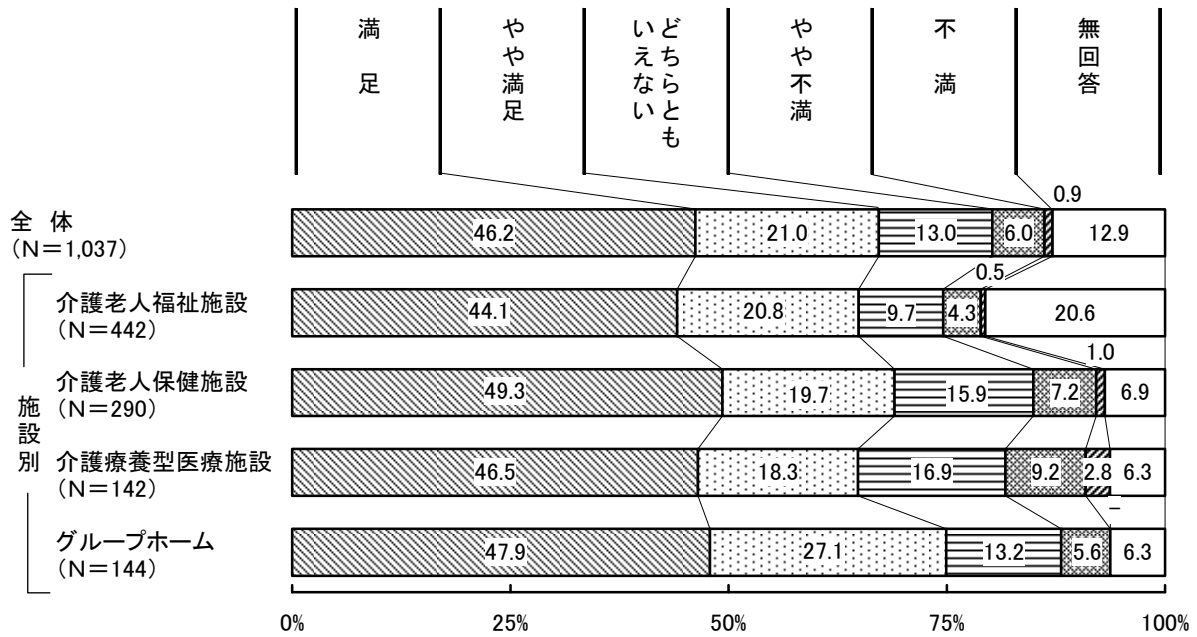
【施設等を選ぶときに、重視する点×施設別】



(3) 現在の施設等の満足度

◇現在の施設等の満足度では、『満足』（「満足」46.2%+「やや満足」21.0%）が67.2%。  
 ◇グループホームの満足度は75.0%と最も高い。

【現在の施設等の満足度×施設別】

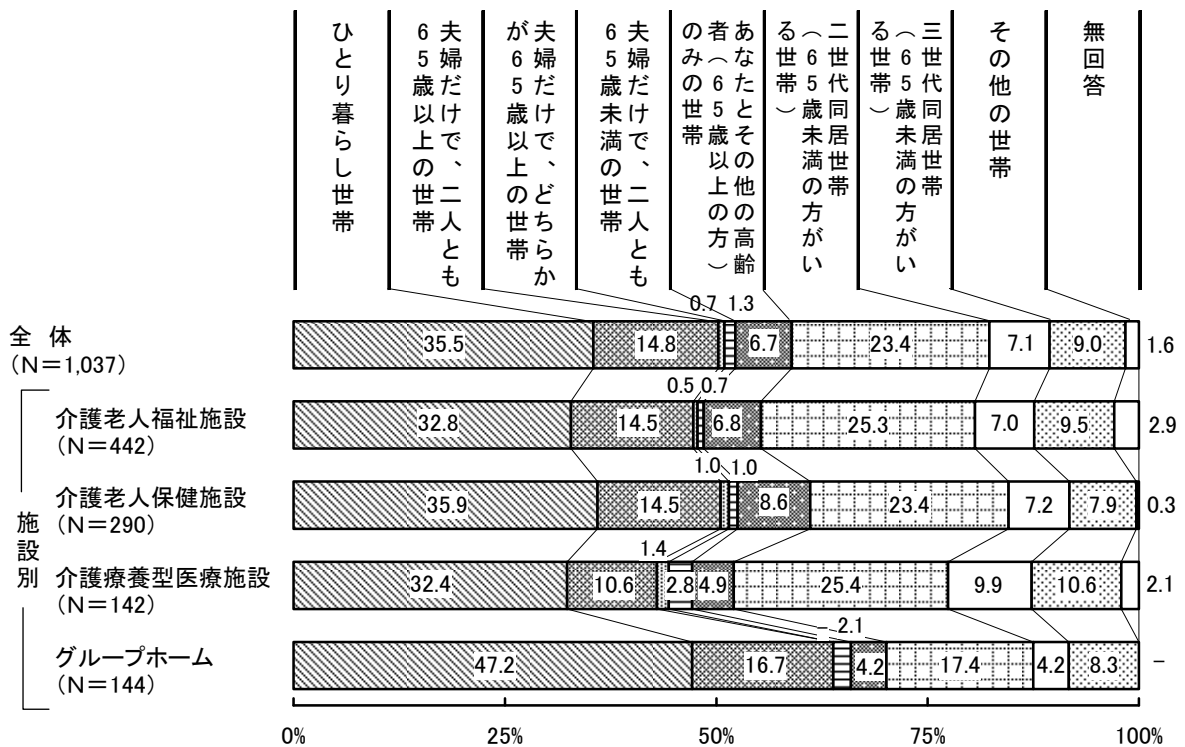


## 2. 親族との交流

### (1) 入所前の世帯構成

◇施設等サービス利用者の入所前の世帯構成は「ひとり暮らし世帯」が35.5%、「二世帯同居世帯（65歳未満の方がいる世帯）」が23.4%。  
 ◇グループホームで「ひとり暮らし世帯」が47.2%と他の施設に比べて高い。

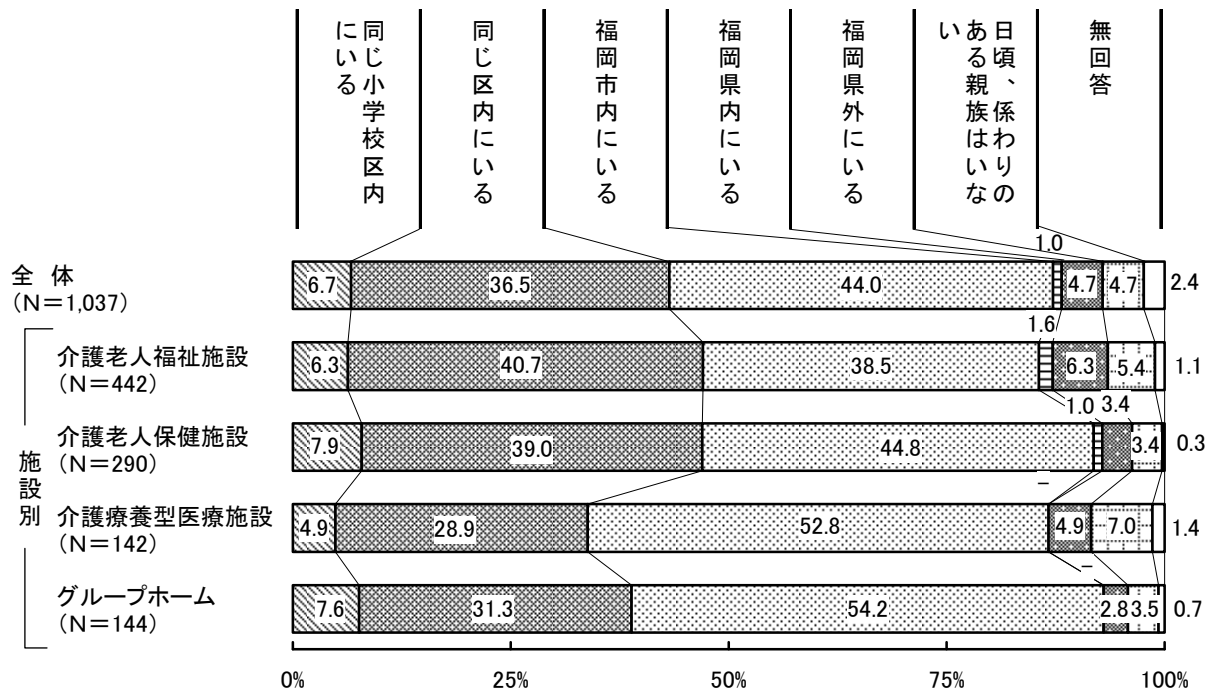
【入所前の世帯構成×施設別】



(2) 日頃から係わりのある親族のいる場所

◇日頃から係わりのある親族のいる場所では、「福岡市内にいる」が 44.0%、「同じ区内にいる」が 36.5%など、福岡市内に親族がいる割合は合わせて 87.2%。  
 ◇介護老人福祉施設および介護老人保健施設で「同じ区内にいる」割合が介護療養型医療施設やグループホームと比べて高い。

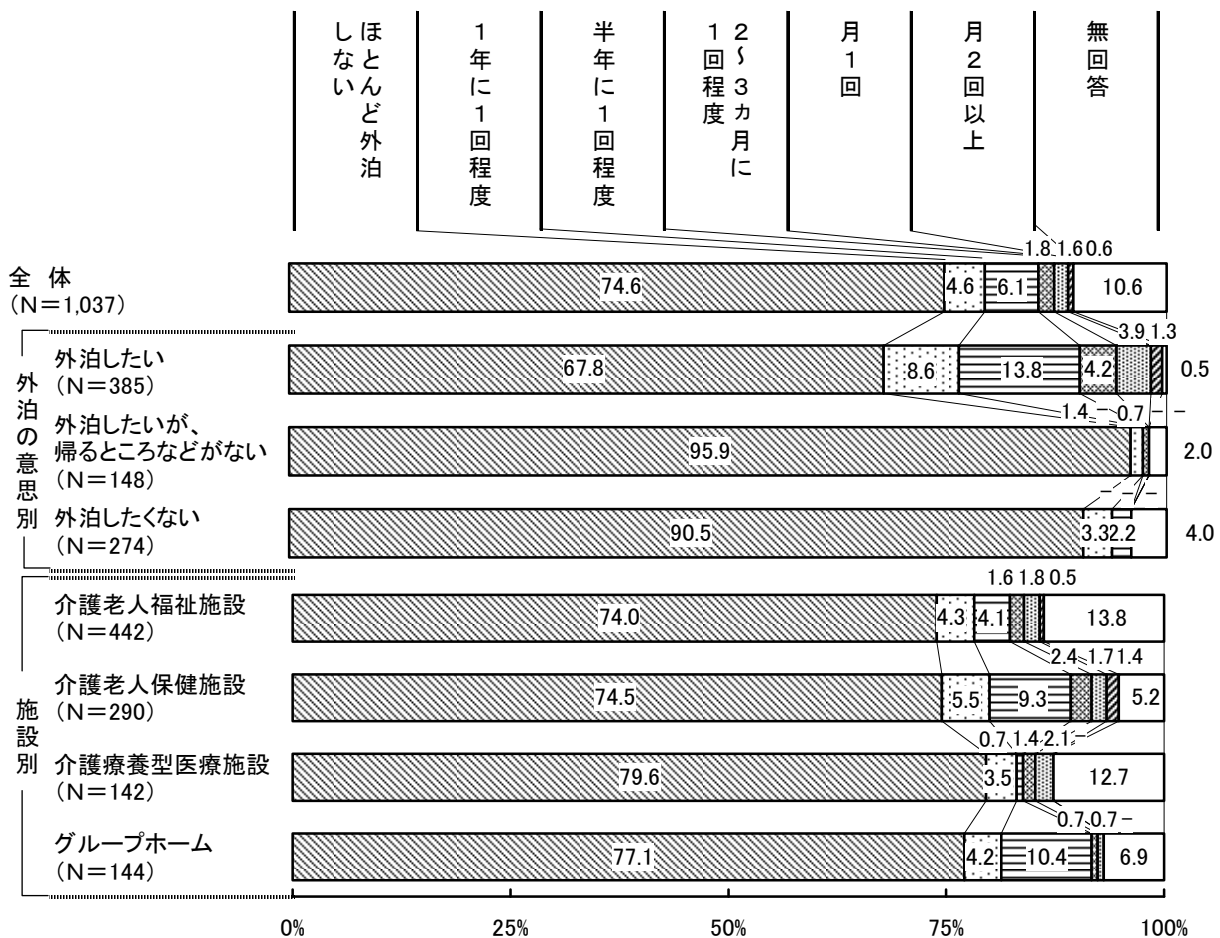
【日頃から係わりのある親族のいる場所×施設別】



(3) 外泊の頻度

◇外泊の頻度は、「ほとんど外泊しない」が74.6%と約4分の3を占める。  
 ◇外泊したい、外泊したいが帰るところがないなど外泊の意思を持っている人でも「ほとんど外泊しない」が多数。

【外泊の頻度×外泊の意思別・施設別】



(4) 外泊する際に必要と思うもの

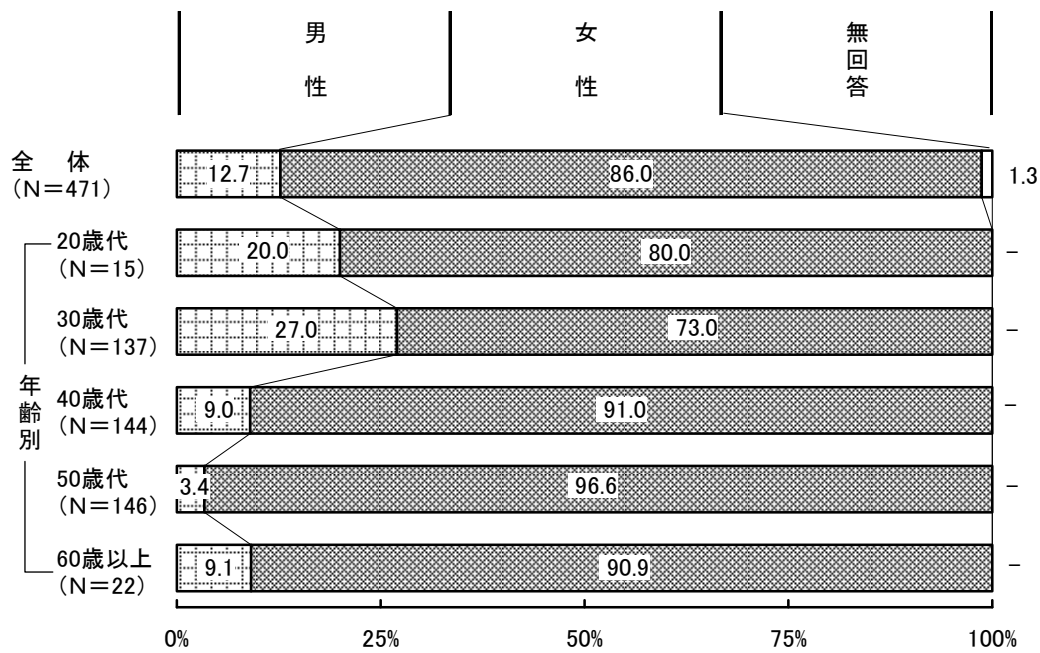
◇外泊する際に必要なものは、「家族の受け入れ態勢」(42.5%)。  
 ◇グループホームを除く施設では「外泊中の車イスやベッドなどの福祉用具」「車イスのまま送迎するなど、送迎のサービス」の要望も高い。

## 第6章 介護支援専門員調査

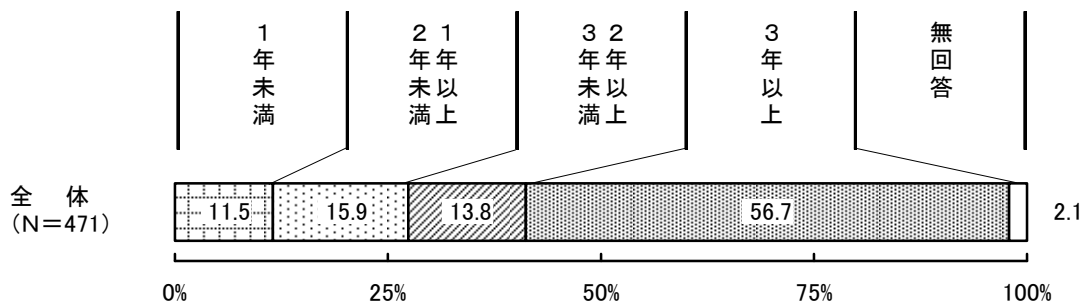
### 1. 回答者の属性

◇介護支援専門員は、女性が86.0%と多く、特に40歳代以上で9割超。  
 ◇専門員の経験年数では、「3年以上」が56.7%。

【性別×年齢】



【介護専門員歴】



### 2. 勤務形態

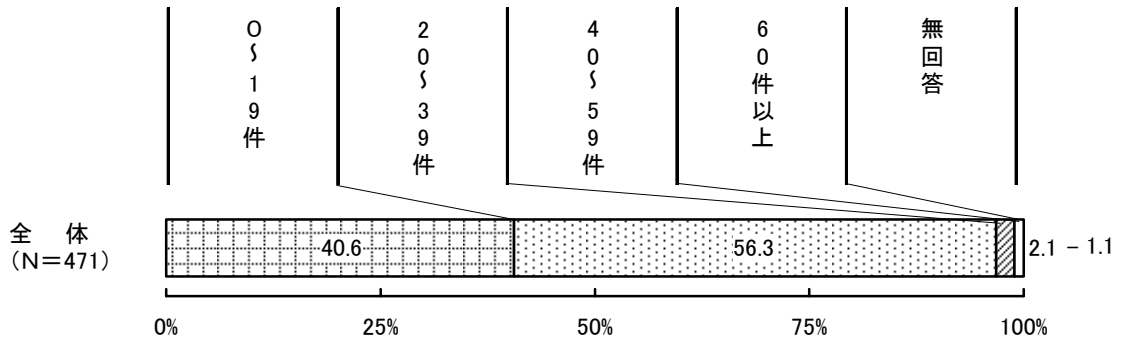
◇勤務形態は、「常勤・専従」が52.2%、「常勤・兼務」が34.2%と『常勤』が86.4%。  
 ◇兼務している人の業務内容は「医療系サービス」が43.0%、「管理・事務業務」が39.4%。

### 3. ケアマネジメント

#### (1) 給付管理件数

◇平成19年9月の給付管理件数は合計9,973件で一人当たり平均は21.2件。

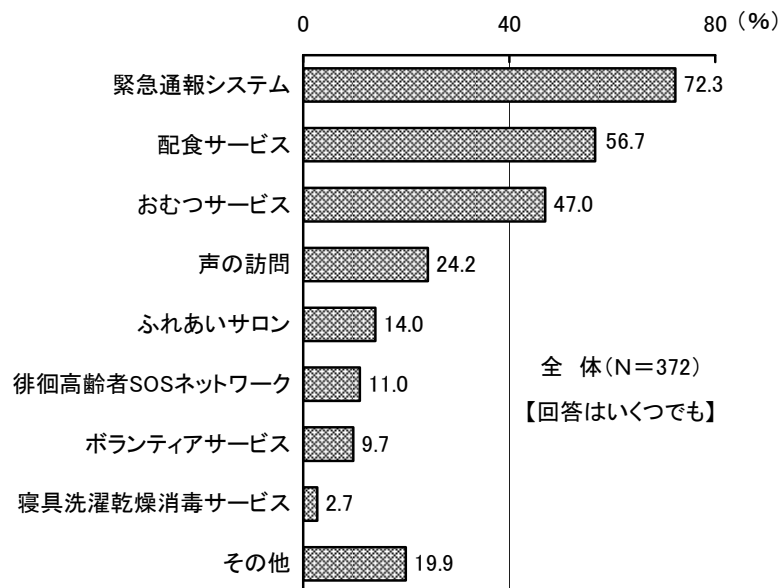
【給付管理件数】



#### (2) 組み合わせた保険外サービス

◇組み合わせた保険外サービスは「緊急通報システム」が72.3%、「配食サービス」が56.7%、「おむつサービス」が47.0%。

【組み合わせた保険外サービス】



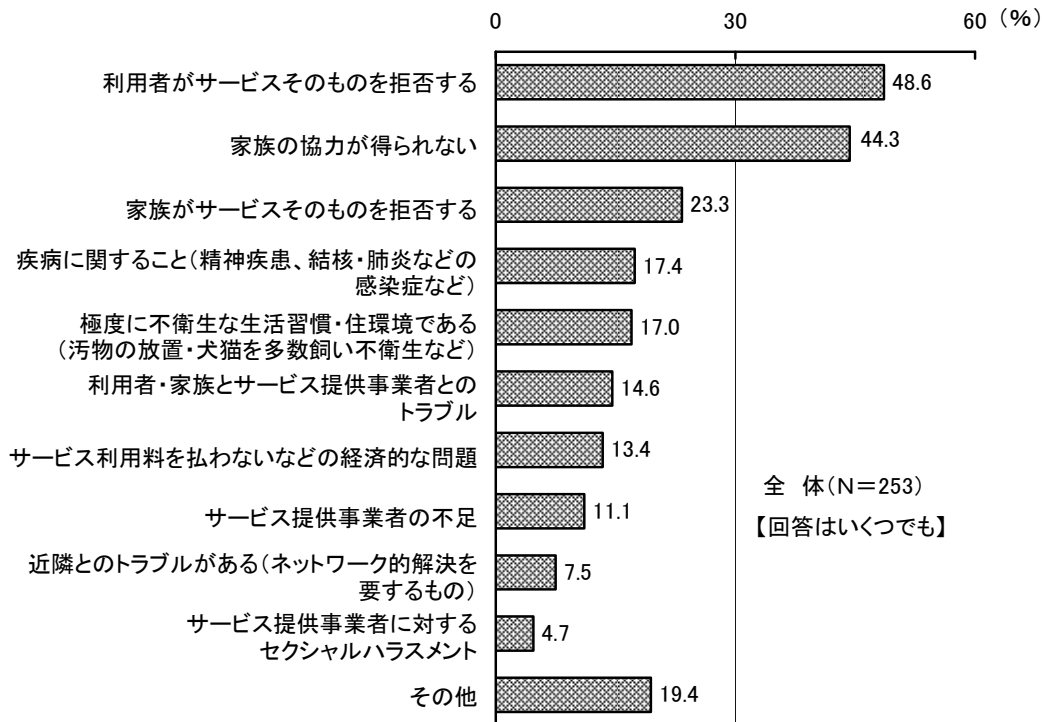
(3) 他機関との連携

◇サービス担当者会議の開催状況は、「必要時に開催している」が 95.5%。  
 ◇主治医との連絡・報告状況は、「利用者の病気など緊急時に行っている」(55.6%)、「居宅サービス計画の新規作成及び変更時に行っている」(54.4%)。  
 ◇サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整方法は、「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」(80.3%)、「電話・面談等で直接、事務所に問い合わせ」(77.9%)、「市の「サービス事業者ガイドブック」を利用」(70.9%)。  
 ◇主治医・サービス事業所以外に日頃、連絡を取っている人は、「地域包括支援センター」(53.3%)。

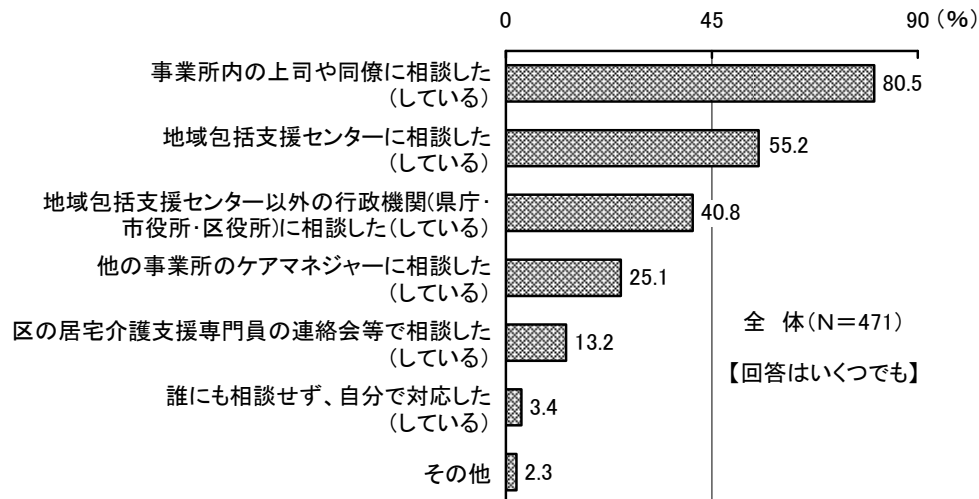
(4) 処遇困難事例と対処方法

◇処遇が困難な事例は 614 件で、全体の 6.2%。ケアマネジャー全体の 53.6%が処遇困難な事例があったと回答。事例として「利用者がサービスそのものを拒否する」(48.6%)、「家族の協力が得られない」(44.3%) など。  
 ◇処遇困難な事例への対応は、「事業所内の上司や同僚に相談した(している)」(80.5%)。

【処遇困難事例】



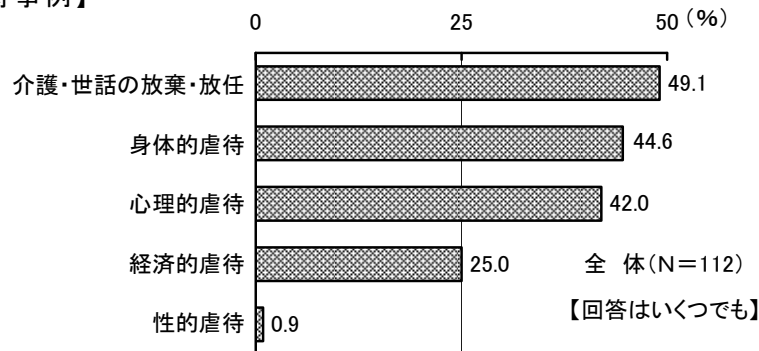
【処遇困難事例への対応】



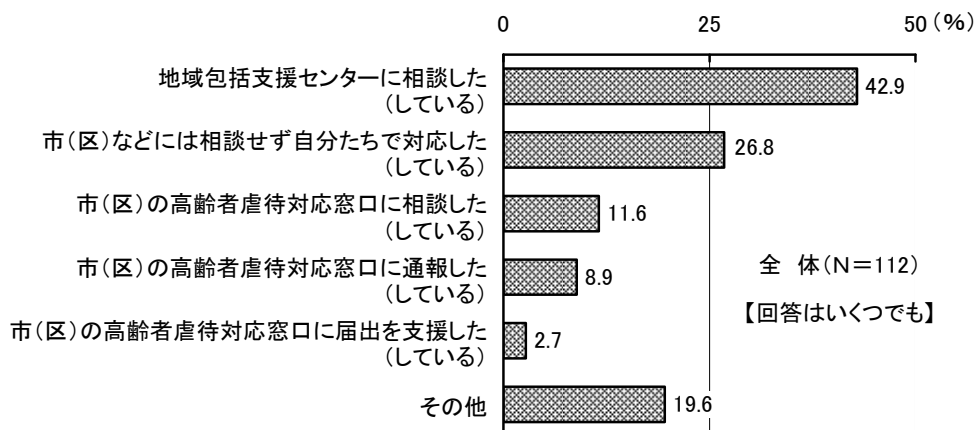
(5) 高齢者虐待の事例と対処方法

◇高齢者虐待事例が「ある」23.7%、「ない」72.4%。事例として、「介護・世話の放棄・放任」(49.1%)、「身体的虐待」(44.6%)、「心理的虐待」(42.0%)。  
◇高齢者虐待事例への対処方法は、「地域包括支援センターに相談した (している)」(42.9%)。

【高齢者虐待事例】



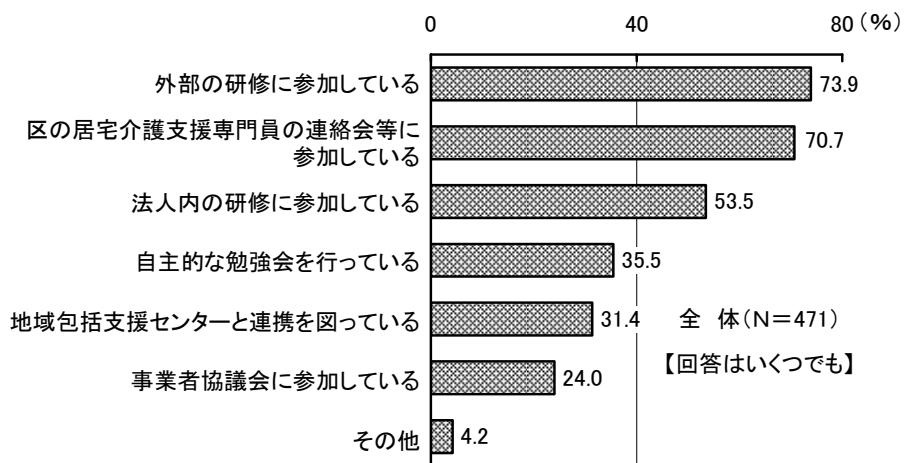
【高齢者虐待事例への対処方法】



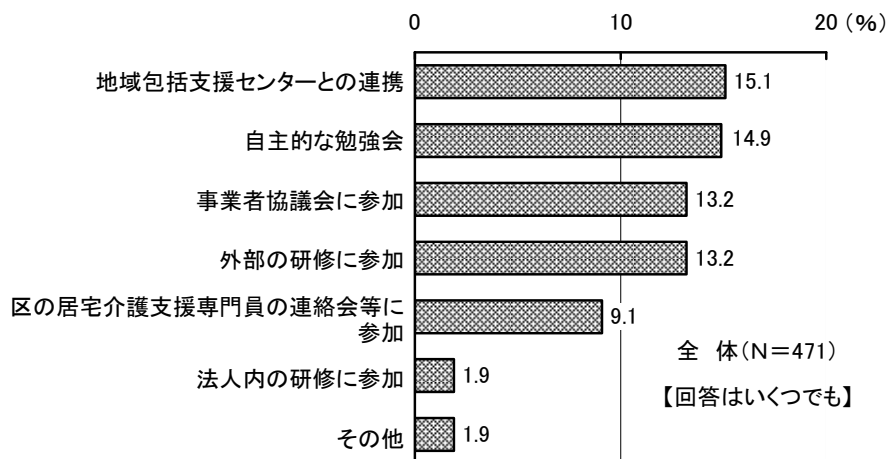
#### 4. 資質向上の取り組み

◇ケアマネジャー業務の資質向上のために行っている取り組みは、「外部の研修に参加している」(73.9%)、「区の居宅介護支援専門員の連絡会等に参加している」(70.7%)。  
 ◇今後行ってみたい取り組みは、「地域包括支援センターとの連携」(15.1%)、「自主的な勉強会」(14.9%)。

【行っている取り組み】



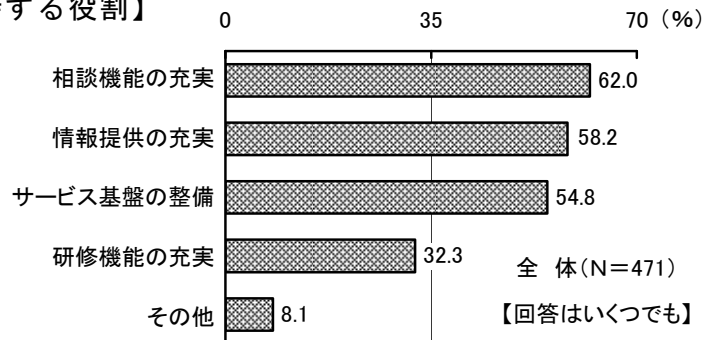
【今後行ってみたい取り組み】



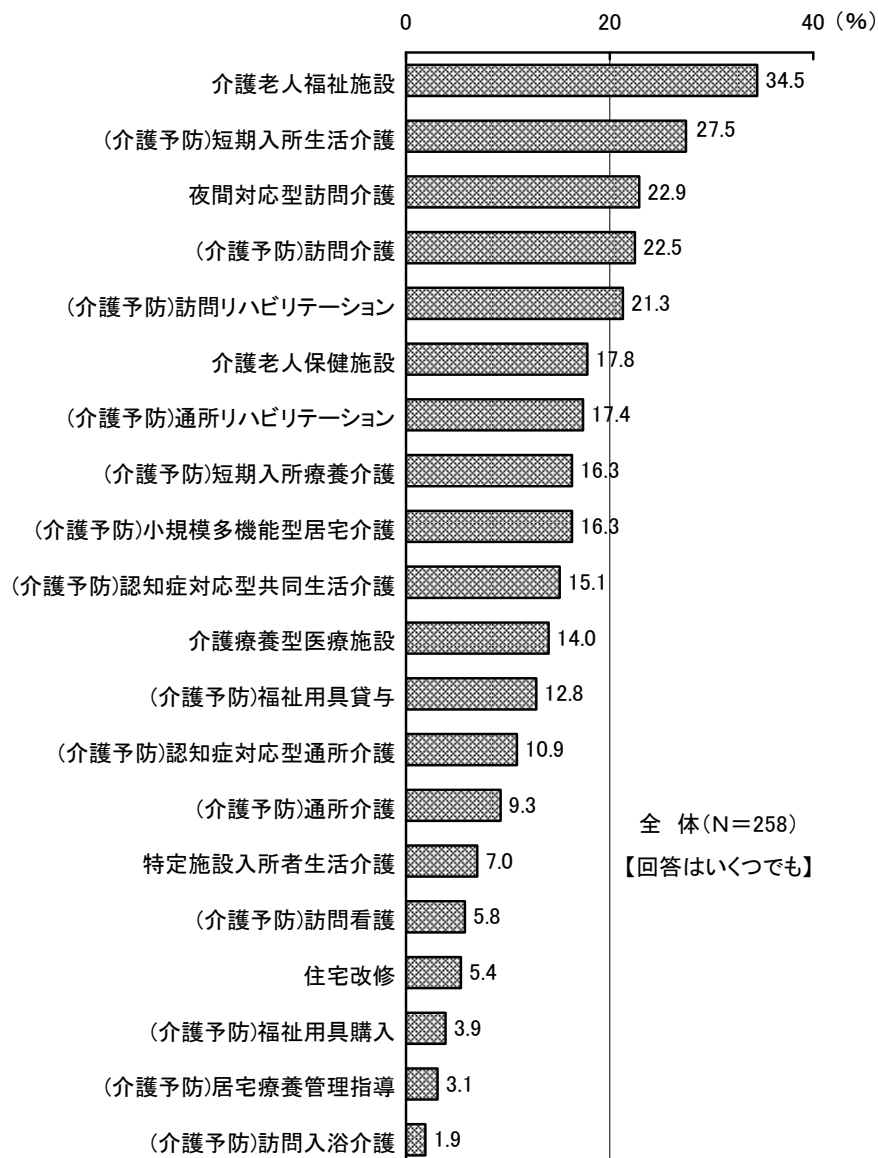
## 5. 行政への要望

- ◇行政に期待する役割は「相談機能の充実」(62.0%)、「情報提供の充実」(58.2%)、「サービス基盤の整備」(54.8%)が5割超。
- ◇「サービス基盤の整備」のうち、特に不足しているサービスは、「介護老人福祉施設」(34.5%)。

【今後、期待する役割】



【不足しているサービス基盤】



平成 19 年度福岡市高齢者実態調査報告書

【概要版】

平成 20 年 3 月

---

---

発行 福岡市

企画 福岡市 保健福祉局 高齢者部 高齢施策推進課

〒810-8620 福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1 号

電話 (092) 711-4881 (高齢施策推進課)

---

---